

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：北海道 函館市

◆コンセプト：「自分らしく暮らし互いに支え合うまち」

個々の多様性に合わせて、お互いを理解し、支え合い、そして最期まで安心して生活できるまちづくり。

<特徴>

- ・住まい、医療、介護などのサービスを一体的に提供
- ・年齢・障がいに関係なく誰もが安心して暮らせるまち
- ・認め合い、支え合い、みんなが活躍できるまち

福祉コミュニティエリア



・イベント



・セミナー

基礎データ

- ・人口：238,213人（R6.3月末時点）
- ・H27.3福祉コミュニティエリア基本構想策定
- ・H28.8地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業関係）認定
- ・H30.2「函館市生涯活躍のまち形成事業計画」策定
- ・地域再生推進法人：社会福祉法人創生会

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 各種イベントやセミナーの開催
- コミュニティカフェ

【今後の展開】

- 地域に定着してきている多世代交流の取組やイベントの継続、新たな取組等の企画

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 障がい者就労支援事業者との協働

【今後の展開】

- 障がい者就労支援事業者と連携し、多世代交流センター内に障がい者のハンドメイド作品などの展示・販売ブースの設置

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 総合型地域スポーツクラブと連携し、体操や運動等の教室を開催

【今後の展開】

- 各種教室の継続による、地域住民の健康意識の醸成と、地域のコミュニティの維持・拡大

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 生活利便施設（ドラッグストア、スーパーマーケット等）の出店や、新外環状道路の日吉インターチェンジの完成

【今後の展開】

- 生活利便性の高さをアピールポイントとした移住の促進

コミュニティへの人の流れ

- 多世代交流の取組やイベント等の実施により、多世代交流センターを中心に、人々の交流が生まれている

その他特徴的な取組

- 多世代交流センター内に、歯科診療所、内科のクリニック、訪問看護ステーション、施術所等がテナントとして入居し、メディカルモールを構築

◆コンセプト

すべての江別市民が市外に転出することなく、生涯にわたって暮らし続けられるまちづくりの実現を目指すため、年齢や障がいの有無を問わず、多世代が集い、交流するとともに、市内に4つある大学等の特色ある地域資源を活用することで、様々な地域課題の解決に寄与する仕組みを構築する。

- ＜特徴＞
- ・生涯にわたって、安心した生活ができるまちづくり
 - ・多様な主体との交流による「共生のまち」
 - ・地域の特色ある社会資源を十分に活用



◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

- 【主な取組内容・進捗状況】
- 地域交流拠点施設を中心とした多世代が集い交流できる場の提供

【今後の展開】

- 多世代交流サロンや地域あそびのひろば、その他コーディネーターによる交流イベントのほか、交流農園を活用して交流を展開

「活躍・しごと」

- 【主な取組内容・進捗状況】
- 中高年齢者等の就業の場の整備
 - 「生きがい就労」支援、ボランティアの斡旋

【今後の展開】

- 拠点地域内のパン工房やレストラン、介護施設において、就労の場を確保
- ボランティア登録制度によるボランティア活動の促進

「健康」

- 【主な取組内容・進捗状況】
- 運動や介護予防の取組を通じた健康づくりを大学や地域包括支援センター等と連携して実施

【今後の展開】

- 拠点地域から周辺地域へ、運動や健康講座を活用した健康づくりの取組の拡大実施

「住まい」

- 【主な取組内容・進捗状況】
- サ高住の整備・運営
 - 障がい者就労訓練グループホームの整備・運営

【今後の展開】

- サ高住の安定的な運営
- 障がい者就労訓練グループホームの運営

コミュニティへの人の流れ

「コーディネーターによる情報発信・交流促進」

- 拠点地域内の施設・サービス内容等の情報発信や、移住に関する相談体制を構築
- 多世代交流の取組やイベント等の実施により、地域住民との交流を促進

その他特徴的な取組

「子育て支援」

- 拠点地域内に保育所や子育てサロンを整備し、親子で交流する場を開設

「介護・医療環境の整備」

- 心身の状況に応じて必要なサービスを提供できる介護・医療環境を整備

「大学・商店街・自治会との連携」

- 地域にある社会資源を活用し、魅力ある地域社会を形成

基礎データ

- ・人口：118,136人（R6.4月時点）
- ・H29.3月 江別版「生涯活躍のまち」構想策定
- ・地方創生加速化交付金（H28）
- ・地方創生推進交付金（H31～R5）を活用
- ・R1.7月 地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業関係）認定
- ・地域再生推進法人：社会福祉法人日本介護事業団
- ・R2.3月 江別市生涯活躍のまち形成事業計画策定
- ・R3.9月 江別市生涯活躍のまち「ココルクえべつ」全面オープン

◆コンセプト：「多文化・多世代共生のまちづくり」

転入者や外国人も含めた町民がまちづくりに参画することで、町の一体感や魅力を向上させ、定住により次世代も住み続けるまちづくり、異なる文化や世代の町民が互いに理解し尊重し合う、多文化・多世代のまちづくりを推進する。

<特徴>

- 町民一人一人の思いに寄り添い、それぞれの力を引き出す
- 地域再生推進法人を活用した、緊密な官民連携



- 基礎データ**
- ・人口：8,332人（うち外国人307人）（R6.4月時点）
 - ・H27.10月 写真文化首都東川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定（H31.3月改訂）、H31.3月 地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業関係）認定
 - ・地方創生推進交付金（H31年度第1回：先駆タイプ）
 - ・地域再生推進法人：株式会社東川振興公社（H31.1月指定）

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地区コミュニティセンターや文化ギャラリー等を使いやすく、機能強化し、「行きたくなる」ような企画を充実

【今後の展開】

- 多世代が互いに役割を持って交流でき、誰でも居場所がある多様なコミュニティ
- 外国人留学生等との日常的な交流や異文化理解を深め、多文化共生社会を促進

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 「しごとコンビニ」運営体制強化、活躍のためのスキルアップの取組
- 「できる。ナビ」の仕組み構築、デジタル活用による活躍の促進

【今後の展開】

- 子育て中の女性や高齢者、外国人留学生等が空いた時間を活用して働き、プチ起業も
- 町民のできることを活かす場・機会を提供し、夢や希望の実現を支える仕組みの整備

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 健康ポイント制度の充実・拡大に向けた検討
- 他自治体・社会福祉施設等と連携した外国人の介護福祉人材育成

【今後の展開】

- 地域包括ケアシステムの充実・強化
- 地域資源活用、官民連携による健康づくり
- 介護福祉人材育成・供給を通じた、持続的な安心提供体制の構築

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 独居や夫婦高齢者の、便利なまちなかへの住み替え住宅の検討
- 空き家バンクの運用および住宅の活用についての意識啓発

【今後の展開】

- 住み替え後の空き家への子育て世代の入居等による住宅循環×転入促進
- 郡部に住む人も含めた、住み慣れた地域で最期まで暮らせる仕組みの構築

コミュニティへの人の流れ

- 大雪山文化、写真文化、木工・家具デザイン文化を軸とし、「株主制度」等を活用した、町のファン・リピーターづくり
- 「オフィシャルパートナー制度」等による企業との関係構築
- 町立日本語学校や海外事務所（5か所）等を活用した留学生等の受け入れ

その他特徴的な取組

- 全国の自治体連携による「生涯活躍ポータル『カラフル』」の移住定住イベント等開催
- 日本語・日本文化を理解し、社会ルールやビジネスマナー等を身に付けた外国人材の育成やキャリア開発
- 子どもや高齢者、外国人等にとって暮らしやすい公共交通の整備

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：北海道 上士幌町

◆コンセプト：「全世代型生涯活躍のまち かみしほろ」

だれもが健康で充実した生活を送ることができるよう、住民同士の繋がりや生涯学習機会の創出、起業支援、多世代交流等の居場所と役割のある地域コミュニティづくりなど全世代型生涯活躍のまちづくりを目指す。

<特徴>

「株式会社生涯活躍のまち かみしほろ」が運営推進機能を担い、住民コミュニティの醸成、生涯学習機会の創出等に取り組んでいる。



◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

○生涯学習センター「わか」を拠点に多世代の居場所、交流、活動が行われている

【今後の展開】

○引き続き、生涯学習センターを拠点に、幼児から高齢者までが互いに学び、育つ世代間交流の促進を図り、知恵の伝承など支え合いのコミュニティ形成を目指す

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

○人材センターや無料職業紹介においてしごとのマッチングを行い、スキルの活用と困りごとの解決を図っている

【今後の展開】

○町内外からサポーター（会員）を増やし、各々のスキルを活かすとともに、困りごとを生業として地域経済が循環するプラットフォームを形成し、コミュニティづくりや人材育成を促進

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

○健康ポイント事業により、活動量計を活用したウォーキングのインセンティブを高めるとともに、イベントなどで健康づくりを促進している

【今後の展開】

○30代～40代の男性の利用が少ないため、この世代の利用を高めることを目的として、企業と連携したモデル事業などを検討し、町内の幅広い世代の健康づくりに対する意識向上と活動促進につなげる

「人材育成」

【主な取組内容・進捗状況】

○住民同士が困りごとを解決するために必要なスキルを習得する学びの場を提供し、いきいきと活躍する住民を増やしている

【今後の展開】

○人材センターや介護、農業分野を始めとした町内事業所等における、担い手確保につながる人材育成を促進

コミュニティへの人の流れ

2014年から都市部においてふるさと納税寄附者と交流会を実施し、関係づくりを継続しているほか、2019年度のシェアオフィスの整備、2021年度の企業滞在型交流施設の整備と、企業人材の還流、町民との交流機会の増加によって関係人口の拡大による地域経済の活性化を目指す。

その他特徴的な取組

「株式会社生涯活躍のまち」をプラットフォームとして、町内外のスキルと町内個人・企業の困りごとをマッチングするシステムを導入し、しごとの掘り起こしや人材育成、コミュニティづくりを目指すシェアリングエコノミー構想を展開する予定。

基礎データ

- ・人口：4,805人（R6.4月時点）
- ・2017年7月「生涯活躍のまち上士幌町創生包括プロジェクト基本構想」策定
- ・2017年9月「株式会社生涯活躍のまち かみしほろ」設立
- ・2017年～19年 地方創生推進交付金「生涯活躍のまち 上士幌創生包括プロジェクト事業」実施
- ・2020年～ 地方創生推進交付金「生涯活躍のまち 上士幌創生包括加速プロジェクト事業」実施

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：北海道 更別村

◆コンセプト：「“ごちゃまぜ”のまちさらべつ」

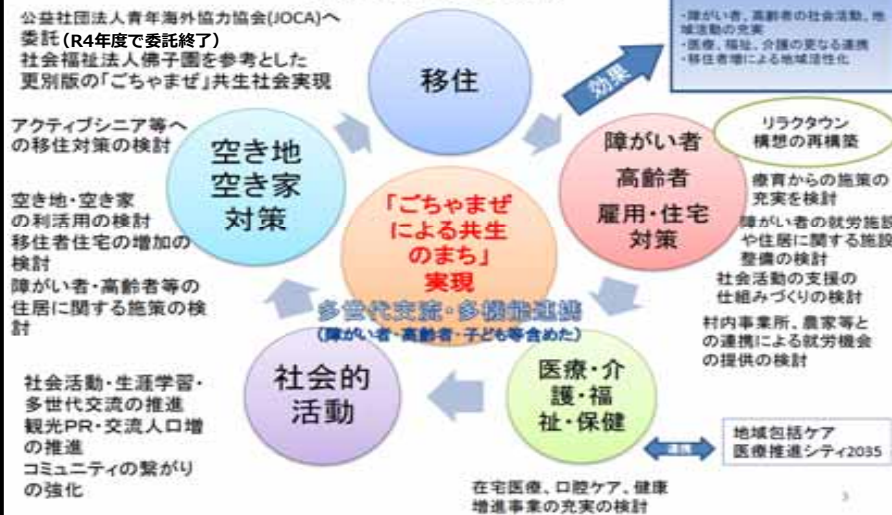
村民の誰もが安心して健康に住み続けられるむらづくり

さらべつ版「生涯活躍のまち」では、社会福祉法人佛子園、公益社団法人青年海外協力協会（J O C A）の取組を参考に、これまで未着手となっている障がい者施策の再構築のみならず、高齢者、障がい者、子育て世代、移住者を含めた村民誰もが関わり合い、健康でいきいきと輝きつづけるむらづくりを推進するため、既存機能を活用した交流拠点の整備をはじめ、リラクタウン構想用地の利活用、多世代交流を促す仕組みづくりや移住の促進、村内ですすでに取り組んでいる多種多様な活動との連携による地域共生社会の実現を目指す。

＜特徴＞ 障がい者、高齢者の就労と住まいの充実を中心に、“ごちゃまぜ”による地域共生社会の実現を目指す

更別版CCRCプロジェクト(イメージ図)

＜H30地方創生推進交付金の活用＞



- ・人口：3,108人（R6.3月時点）
- ・H27.10地方版総合戦略を策定
- ・H30.4地域再生計画（さらべつ版CCRCプロジェクト）認定
- ・H30年地方創生推進交付金（H30第1回）を活用、さらべつ版生涯活躍のまち推進協議会設置し、H31.3さらべつ版生涯活躍のまち基本構想・基本計画を策定
- ・R2.3さらべつ版生涯活躍のまち構想実施計画策定
- ・R2コーディネーター配置（※R5.3配置終了）
- ・R3.4コミュニティカフェ「ゆーゆ」開業（※R5.4常設運営）
- ・R5.2推進協議会解散、構想の一部を自立支援協議会に移行

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 既存施設を活用した共生拠点づくり、仕組みづくりへ向け、検討
- フォーラムに合わせた“ごちゃまぜ”のイベントを多世代にて実施

【今後の展開】

- 障がい者・高齢者の就労、社会活動の場所が、障がい者、高齢者を含んだ村民の居場所となるよう、“ごちゃまぜ”の拠点を整備
- 拠点へ集まる仕掛けづくり準備開始
- 村内の子供、地元高校生等の関わり強化

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 雇用の場、活躍の場を地域交流拠点に整備するため、就労カフェ等の整備検討
- 村内での雇用、活躍の場の拡充

【今後の展開】

- 相談体制の充実、中心となる運営主体を確保し、拠点での事業展開のほか、村内へ波及する取組へつなげる
- 更なるニーズの掘り起こし
- 就労、雇用の場の整備



「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 高齢者の孤立を防止し、介護予防、健康増進を拡充
- 健康促進プログラムの充実

【今後の展開】

- 地域包括ケア、診療所、保健、福祉、医療関係機関と連携したプログラムの充実
- 多世代が参加できるプログラムの検討
- ウェルネスの活用、整備



「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 住環境の整備（宅地造成、障がい者GH等）へ向け、検討
- 住まいの整備とともに、見守りの体制づくりを検討

【今後の展開】

- 障がい者、高齢者の就労事業と合わせた、障がい者、高齢者の住居整備
- 地域包括ケアと連携した見守り体制の確立
- 宅地造成、移住者向け住宅の整備を行い移住者を呼び込む

コミュニティへの人の流れ

- 村内で実施されている人を呼び込む施策との連動（人材育成事業、さらべつブランディングプロジェクト、スマート定住化計画策定等）
- 地域交通による移動支援との連動
- 特産品開発等の新たな産業創出との連動を検討

その他特徴的な取組

- 既存施設には、温泉、健康増進室、高齢者デイ、各種検診、サークル活動が展開され、診療所、支援ハウスが隣接している
- 福祉の里エリアにおける医療、地域包括ケア、保健、福祉による多世代の健康まちづくりに取り組む

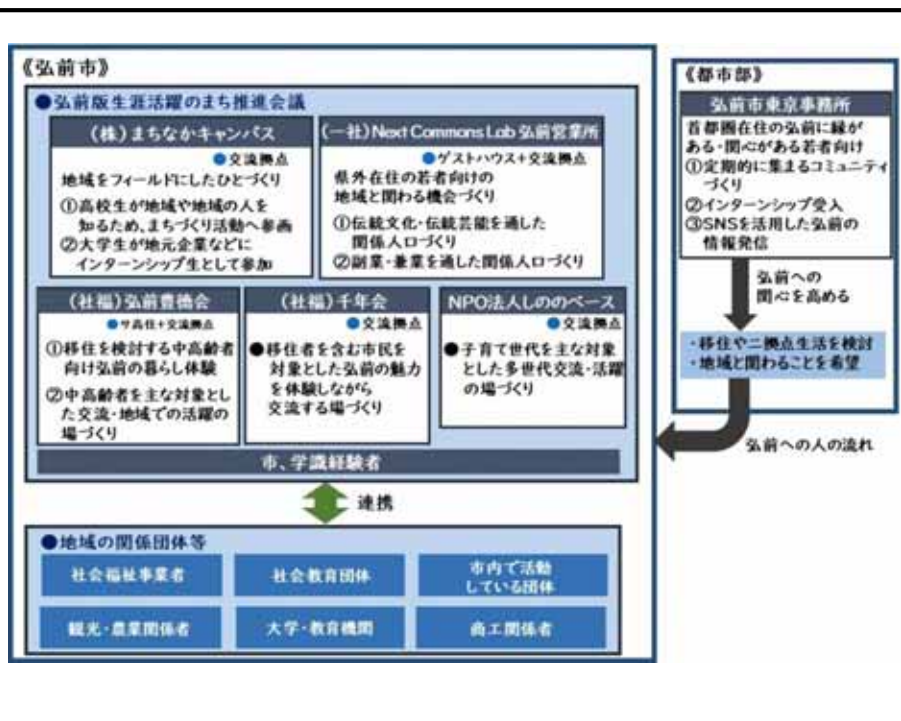
全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：青森県 弘前市

◆コンセプト：「誰もが気軽に関わることができ、 つながりができることによって活性化するまち」

市内で活動する市民活動団体や事業者・地域住民等と行政が協働により、居住地や世代を問わず、様々な人が交流し、自身のスキルや経験等を生かしながら地域で活躍できる持続性を持った仕組みを構築する。

<特徴>

- 移住推進だけでなく、関係人口創出へ向けて取り組むことにより、地方への人の流れを創出
- 県外へ転出する前の学生に向け、地域志向醸成により将来的なUターン移住を意識づける取組を実施
- 市内で活躍する様々な団体等が事業に関わり、活動を顕在化することにより、多くの人が自身の経験やスキル等を生かし地域で活躍できる仕組みを構築



◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 市内で活動するまちづくり関係者と連携し、居住地や世代を問わず、自身の経験やスキルを活かしながら、地域で活躍でき、様々な人と交流できる場を創出

- 首都圏在住の弘前圏域出身者や、弘前に関心がある人のコミュニティを構築し、常に弘前に目を向ける機会を創出

【今後の展開】

- 事業主体と連携できる団体を掘り起こしながら、様々な人の交流機会や、自身の経験・スキル等を地域に還元できる機会を増やす

- 定期的に対面で交流できるイベントの実施やSNSでの情報発信等により、コミュニティを活性化させ、弘前と関わる人を増やす

「活躍・しごと」

※「交流・居場所」参照

【主な取組内容・進捗状況】

- 地方に関心がある県外在住の若者が地元企業等で兼業・副業を実施

【今後の展開】

- 兼業・副業として関わることができる地元企業・商店等を掘り起こすため、企業等に対し、周知を図る
- 県外在住者がしごとを通して弘前と関わる機会を創出する

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 介護予防や健康づくりの取組とともに、参加者同士が交流できる機会を創出

- 50歳以上を対象に、トレーニング器具を開放

【今後の展開】

- 運動や介護予防を通じた交流・活躍の場づくりを実施する
- 健康をテーマに、「コミュニティ・キッチン」等を活用しながら交流・活躍の場づくりを実施する

コミュニティへの人の流れ

- 地方に関心がある若者や移住に関心がある中高齢者が、伝統文化・伝統芸能などの当市の資源や、当市で行われている様々な活動を通して、地域や地域住民と関わることで、継続的に当市と関わる「関係人口」の創出を図る

その他特徴的な取組

- 大学・高校等と連携し、高校生が地域に関わる機会の創出や、大学生が企業・商店等の経営課題に取り組むことで、地域で人材を育て、地域に還元される仕組みを構築する

基礎データ

- ・人口：159,675人（R6.4月時点）
- ・R4.3 地域再生計画認定（「誰もがつながり活躍できるまちづくりプロジェクト」）
- ・R4.4から地方創生推進交付金を活用し、「関係人口創出事業」や、「地域をフィールドにしたひとづくり事業」、「首都圏における若者コミュニティづくり事業」、「交流・活躍の場創出事業」を実施。

◆コンセプト：ノーマライゼーションという言葉の いないまち 陸前高田

子どもから高齢者まで、市民みんなが生き生きと笑顔で過ごすことができる世界に誇れる美しい共生社会のまちづくり

<特徴>

ユニバーサルデザインに配慮した「すべての人にやさしいまち」、思いやりの心で支え合う「共生のまち」、国内外から多くの人々が訪れる「交流のまち」、次世代を担う子どもたちが夢や希望を持てる「持続可能なまち」の具現化



～ノーマライゼーションという言葉のいないまち 陸前高田～

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 小中学校の空き校舎を活用した市民と学生の交流活動拠点の設置
- 道の駅を拠点とした観光客の市内周遊の促進

【今後の展開】

- 学生のボランティア活動、津波防災教育などを通じた交流人口の拡大
- 体験型のオーガニックランドの整備による市内経済の循環の推進

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 起業家・新規事業者応援プロジェクト
- 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の確立

【今後の展開】

- 第一次産業の新規就業者に対する支援体制の充実及び水産関連産業の新規参入の促進
- SDGsの達成に向けた社会課題解決に取り組む新規事業・起業への支援
- 農福連携等を通じたユニバーサル就労の推進

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- たかたっ子、子育てサポート体制づくり
- 誰もが活躍できる地域社会をつくる

【今後の展開】

- NPO等との連携による託児・子育てサービスの提供、子育て支援のワンストップ窓口の設置等
- ユニバーサルデザインに配慮したまちの形成
- 配食サービス事業を活用した見守り等の実施

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- ふるさと「陸前高田」住みたいまち移住・定住支援プロジェクト

【今後の展開】

- 空き家バンク及びワンストップ窓口の運営、金融機関と連携した融資支援による移住受入れ促進
- 移住受け入れ後の生活相談、交流会、就業、住宅改修等の切れ目ない支援
- 高齢移住者と地域コミュニティを結ぶ陸前高田版CCRCの推進

コミュニティへの人の流れ

- 「陸前高田思民」の拡大と市民総活躍の環境づくり
- 新たな公共交通ネットワークの構築
- 観光地における2次・3次交通の構築

その他特徴的な取組

- 地域電力会社と連携した再生可能エネルギー導入の促進によるエネルギーの地産地消、脱炭素型地域エネルギーシステムの確立に向けた取組
- 中心市街地と災害公営住宅・道の駅を結ぶ新たな交通手段として、グリーンスローモビリティ（時速20km未満で公道を走る電動車）の運行を開始

基礎データ

- ・人口：17,452人（R6. 3月末時点）
- ・H27.6 ノーマライゼーションという言葉のいないまちづくりアクションプラン策定
- ・R元.7 SDGs未来都市選定
- ・R2.3 陸前高田市人口ビジョン及び第2期まちひとしごと総合戦略策定

- 移住希望者へ先輩移住者を講師とし、町の魅力や生活・仕事について語り合うイベント開催
- 移住者のみならず定住者へのフォローを行う町民との交流イベント開催

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：秋田県 大館市

◆コンセプト：

地域と人が多彩に輝く「おおだて暮らしを楽しむ」

「おおだて暮らし」の魅力を充実させることで、若年層を含むあらゆる世代の健康長寿、生涯活躍を実現し、定住促進と移住者の獲得を目指す。

<特徴>

恵まれた自然と豊富な地域資源、変化に富む四季を通じて生活の豊かさを感じることで、大館への誇りと愛着を醸成する。

おおだて暮らしの魅力によって若年層を含む幅広い世代の健康長寿・生涯活躍を実現し、定住促進を目指す



◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 百花繚乱作戦（ふるさとキャリア教育）
- 地域応援プランによる地域コミュニティの支援
- 高齢者クラブ（地域サロン）の開催

【今後の展開】

- 集落自治体等が行う、地域活性化や課題解決への自らの取り組みを支援する「地域応援プラン」や、「大館盆地を学舎に、市民一人一人を先生に」をコンセプトとするふるさとキャリア教育により、交流する環境・居場所づくりに取り組んでいく。

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- こどもハローワークの設置（お仕事体験）
- 雇用対策協定による秋田労働局との連携
- 職の窓口「活jobおおだて」（相談窓口）

【今後の展開】

- 「子どもハローワーク」の取り組みにより子どものうちから地元ではたらくことについて学ぶ機会を設けるとともに、高齢者の就労を推進することで全ての年代が意欲と誇りを持って働く社会を構築していく。

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 子育て世代包括支援センター「さんまある」
- 生きがい健康づくり事業の実施
- 健康ポイント事業の実施
- 認知症予防介護教室

【今後の展開】

- 妊娠・出産・子育てに関する相談拠点「さんまある」により電話や訪問相談で子育て世帯の不安解消につとめる。また、第3次大館市食育推進計画を策定し、「市民が健康でいきいきと暮らすまち」を目指していく。

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 定住奨励金の給付
- 空き家バンク制度の運営
- 住宅リフォーム事業（子育て・三世同居）

【今後の展開】

- 空き家バンク制度の充実により、移住希望者への情報提供を継続する。また、住宅リフォーム事業は移住者向け支援や空き家バンク購入者向け支援を設けて充実を図る。また、地方創生の推進とまちの賑わいを持続可能なものとするため、平成31年3月に都市再興基本計画を策定し、まちづくりに取り組んでいく。

コミュニティへの人の流れ

- 官民協働で「大館市まるごと体験推進協議会」を設立し、グリーンツーリズムや修学旅行用の体験型観光メニューづくりに取り組んでいく。修学旅行で大館市を訪れる小中学生に、大館の食文化である「きりたんぼ」づくりや農業を体験してもらうことで、再び訪れてくれるファンづくり・関係人口創出を目指していく。

その他特徴的な取組

- 市内の講座・教室・サークル情報、自主企画講座などを掲載する講座情報ポータルサイト「大館学び大学」を運営し、これから社会に出る若者から現在働いている社会人、子育て世帯に至るまで、幅広く大館で働きたい・暮らしたい人を応援していく。

- ・人口：66,218人（R6.3月末時点）
- ・面積：913.22km²
- ・おおだて未来づくりプラン（R6.4月）
- ・地域再生計画（大館版CCRC事業）認定（H28.8月）
- ・大館版CCRC 「地域と人が多彩に輝くおおだて暮らしを楽しむ」基本計画策定（H30.3月）

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：山形県 酒田市

◆コンセプト：「参加する暮らしに人が集うまち」

移住者が市民とともに、様々な地域づくり等に役割を持って参加することで、豊かで生きがいのある暮らしとなり、その暮らしに移住者を含めた多くの人が魅力を感じ集い、地域の活性化に寄与する取組とする。

<特徴>

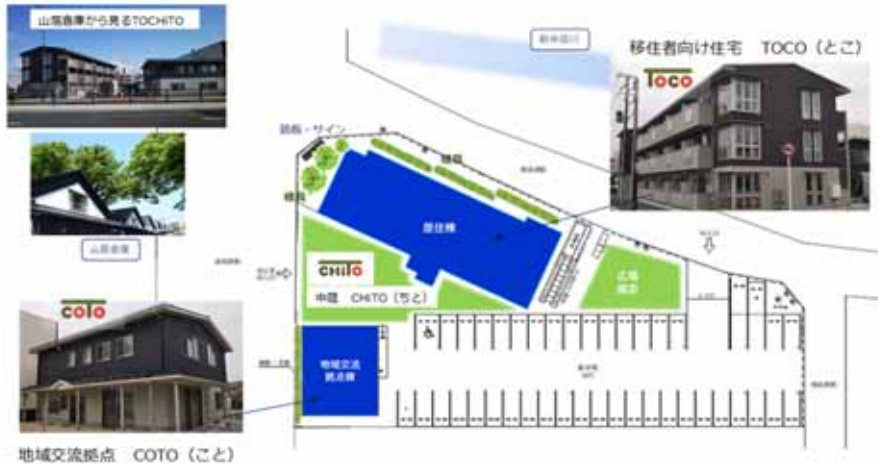
- 移住前から地域との関わりをコーディネート
- 民間事業者との公民連携のスキームにより実施

市中心部の市有地を貸付け、民間事業者が整備運営する公民連携モデルとして拠点を展開し、地域と交流しながら活躍する移住者のロールモデルを発信できる場所に。



公募選定された民間事業者、連携する関係機関との協議を重ね、事業コンセプトをもとに、TOCHITO(とちと)プロジェクトとの愛称に。

移住者は酒田という土地のヒト・モノ・コトと繋がり、参加する暮らしを始めます。
やがて少しずつ地に根づき、自らも土をつくるようになります。
そして、土地の多世代の人々と共に手を動かし、参加することで、実りある人生と、持続可能なコミュニティを創ります。



- 基礎データ**
- ・人口：94,902人（R6.4月末時点）
 - ・H27.11月酒田市版戦略を策定
 - ・H31.3月地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業関係）認定
 - ・地方創生先行型交付金、地方創生加速化交付金、地方創生推進交付金を活用し、FS調査、ニーズ調査、移住相談体制の構築、情報発信を実施。

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 移住前から本市の地域活動やまちづくり活動に関わる機会を創出
- 市中心部の市有地に公募選定された民間事業者が交流拠点を整備

【今後の展開】

- 事業主体となった民間事業者が交流拠点にコーディネーターを配置、移住者の暮らしをフォローし、地域との交流機会などを企画運営。

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 豊富な社会資源を活かし、活躍する場の提供に努め、資源とつながりをコーディネートしていく仕組みづくりを行う

【今後の展開】

- コーディネーターが移住者の活躍をサポート。
- 連携する生活クラブ生協提携生産者からのリスト化した仕事情報を提供。

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域包括支援センターに、独自に地域コーディネーターを配置
- 地域での居場所づくり、健康づくりに取り組んでいる

【今後の展開】

- 移住者が健康づくりの居場所等へスムーズに参加できるよう関係づくりをコーディネートし、場の運営を担える人材育成を進めていく。

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 市中心部の市有地に公募選定された民間事業者が移住者向け賃貸住宅を整備

【今後の展開】

- 移住者向け住宅は定住に向けた転居がありつつも次の入居者が決まり満室を維持。次の移住検討者に向けて、多様な住まいの選択肢を提供できる仕組みを構築。

コミュニティへの人の流れ

- 移住相談窓口に、暮らし、仕事それぞれの専門の相談員を配置。個別相談に丁寧に対応している。本市への来訪機会をつくるため、お試し住宅、体験ツアーなどを実施し、その中で市民との交流の機会を提供している

その他特徴的な取組

- 主力生産地として関係の深い生活クラブ生協と連携し、持続可能な地域社会づくりを目指し取り組んでいる。他、移住者受入れに積極的な地元企業との連携も行っている

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：山形県 長井市

◆コンセプト：

コミュニティセンターを核とした地域住民主体の地域づくり

<特徴>

令和元年度から市内の地区公民館すべてをコミュニティセンター（以下「コミセン」）へ移行し、これまでの生涯学習・社会教育の事業だけでなく、各地域で策定した「地域づくり計画」に基づき、防災・福祉等を含めた総合的な地域づくり活動を行う拠点と位置付けている。令和4年度からはコミュニティセンター運営組織を法人化し、組織的な人材育成や戦略的事業に取り組んでいる。

長井市における特徴的な取組



◀生活支援体制の構築

誰もが住み慣れた地域で幸せに暮らし続けられる環境を構築するため、住民同士の共助による移動支援や買い物支援を実施。



◀デジタル化への対応

長井市が進めるスマートシティ推進事業に並行して、全世代がデジタル機材を活用できるようコミセンでの対応を実施。



◀組織的な人材育成の実施

各地域における地域づくり活動の機運醸成のため、2024地域づくりフォーラムを開催。関係団体との連携により、広い範囲・世代を対象とし、地域全体の人材育成を図った。

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域住民の交流スペースの創出
 - 各種教室後の懇談、ワークショップ等に活用。

【今後の展開】

- 各コミセンへのwi-fi環境の整備により、デジタル事業をより促進し、施設の利便性の向上と新規来館者の増加を図る。

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- デジタル化への対応
 - 高齢者等を対象にスマートフォンの操作教室等を実施。
- マルシェ事業の実施
 - 地域の農産物や地場産品、教室等で作成した手芸品の販売会を実施。

【今後の展開】

- 全ての地区で教室を開催することで、デジタルデバイドの解消を図り、ローカルビジネスの創出に繋げる。
- 一部地区でのマルシェ開催から、全地区での開催に広げ、地域のなりわいづくりを促進する。

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 健康教室の実施
 - 高齢者を対象に、様々な健康づくり教室や体験を実施。

【今後の展開】

- 体組成計等の新たなツールを導入し、教室での継続的な効果測定を実施する。
- eスポーツの実施により、従来の方法にとられない健康づくりを促進する。

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 空き家を活用した移住定住促進
 - 伊佐沢コミセンにおいて「移住・定住マップ」を作成。

【今後の展開】

- 地区内の関係機関と連携して空き家相談会を開催することで、空き家解消と移住定住を促進する。

コミュニティへの人の流れ

○買い物支援事業

- 西根コミセン施設内に直売所、伊佐沢コミセン敷地内にスマートストアを設置し、買い物目的での来館者が増加している。売店の更なる魅力向上・発信のほか、新たな買い物支援の実施を図る。

○移動支援事業

- コミセン事業参加者の送迎を実施し、地域の方がより集まりやすい環境を整備することで、コミュニティの活発化を図る。

その他特徴的な取組

○法人の設立・運営

- 市内コミセンの管理・運営等を包括する（一社）長井市コミュニティ協議会の運営を令和4年度から開始。
- 組織的な人材育成により、地域のコーディネーターとして、地域の独自性を活かしながらも、地域課題解決につながるコミュニティビジネス事業等の実施を図る。

基礎データ・人口：24,639人（R6.3月時点）

中央地区：11,943人

平野地区：2,483人

致芳地区：3,050人

伊佐沢地区：1,034人

西根地区：2,704人

豊田地区：3,425人

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：福島県 伊達市

◆コンセプト：「地域が家族になるまちづくり」

健康な時から、仕事や社会参加を通じて自己実現と地域の活性化が両立できる生活を提供し、地域が家族としての役割をもって活躍できるまち。その拠点として、伊達市高子駅北地区において、「年齢や職業、障がいの有無や性差に関係なく誰もが住みたくなるまちで、自分らしく暮らせるまちづくり」を目指す。

<特徴>

- 子どもから高齢者、障がいのある方などの全員が活躍する拠点
- 「農業」×「福祉」×「健幸」を基軸とする多世代交流プログラム
- 健幸都市をテーマに遊歩道等を整備し、伊達市発祥の地の史跡を活かした「自然と歩きたくなるまちづくり」を実現

CCAC構想

Continuing Care Retirement Community

Continuing Care Active Community



～U-プレイス伊達～

他エリア等との連携を図り、多世代交流や活動を育む CCAC交流施設

～Nextプレイス～

田舎暮らしを希望する都市住民等に伊達市ならではの体験とゆとりある暮らしを提案する CCACお試し居住施設



基礎データ

- ・人口：56,404人（R6.3月末時点）
- ・H29.3 伊達市版生涯活躍のまち構想策定
- ・R4.9 伊達市高子駅北地区CCAC構想策定
- ・R4.9～ CCAC事業にかかる公募
- ・R5.2 市とCCAC事業者との間で事業協定締結
- ・デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流拠点」

【主な取組内容・進捗状況】

- 福祉施設とこども園等と連携しながら伊達市全域の核となる施設
- 子どもから高齢者、障がいのある方などの交流を促す拠点施設
- テレワーク、移住相談、コミュニティ食堂等の機能設置



「福祉」

【主な取組内容・進捗状況】

- 共生型支援施設：相乗効果が期待できるよう、こども、障がい者、高齢者を混成し複合的に支援
- 就労支援：顕在化する引きこもり者に対して就労体験を提供し、積極的な社会参加を支援
- 交流施設と連携した農福連携プログラムの提供

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 区画全体に遊歩道や公園、伊達氏史跡等を設けた「歩きたくなるまちづくり」をコンセプトとした設計
- 区画を横断するかたちで公園緑地を配置した歩行者ネットワークを整備し歩いて楽しめる空間の提供
- 公園緑地内には健康器具を設置、身近な空間での市民の健康を増進

「お試し居住施設」

【主な取組内容・進捗状況】

- お試し居住施設を活用した農業体験・田舎体験による地域住民との交流
- 就業体験を取り入れた関係人口と移住促進
- CCAC施設を拠点に、シェアカーやシェアサイクルを活用した市内周遊による魅力の再発見

コミュニティへの人の流れ

- 移住定住コンシェルジュが架け橋となり、希望にあった移住のコーディネートや移住後のフォローまでワンストップでサポート
- 地域交流や各種団体との連携による地域コミュニティの醸成

その他特徴的な取組

- 「妊娠期から切れ目のない支援 そして親子が笑顔になれる架け橋」をコンセプトにした「伊達市版ネウボラ」
- 県外からの移住で保育・福祉の資格職で勤務する人への支援
- 県内外の学生によるマルシェ開催

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：栃木県 大田原市

◆コンセプト：地域共生社会を目指して、 「健康長寿・生涯活躍」を実現するまちづくり

これまで取り組んできた各日常生活圏域における地域包括ケアシステムの体制を活かし、高齢者支援だけでなく、あらゆる分野の課題解決に向けた地域が主役のまちづくり。

<特徴>

移住ありきではなく、今住んでいる人たちが生まれてから最期の時まで住み慣れた地域で元気にいきいきと暮らせる地域づくりを地域住民が主体となって取り組むことで、関係人口を増やす。

県北・八溝山周辺の豊かな地域資源や医療福祉をはじめとした都市機能集積を背景に、全市的なまちづくり、産業振興、地域包括ケアシステム等を基盤として、各地区の住民等をはじめとする多様な分野の担い手・施策が連携した展開により、地区ごとに特性を活かした「生涯活躍」が実現され、多世代共生の持続的な地域発展につながっていく。

◆3つのコア機能を組み合わせた、各地域での展開

本市の中学校区単位での「生涯活躍」「地域包括ケアシステム」等の取組基盤を活かして、全市的な「健康長寿・生涯活躍」の推進に向けて、地域ごとに以下の3つの機能の組合わせで展開していく。

- コミュニティ機能（地域単位で備える基礎的機能）
- まちなか機能（中心市街地、小さな拠点等）
- 大学等連携機能（地域を越えた本市の特徴的機能との連携）

◆概ね中学校区単位での「生涯活躍」「地域包括ケアシステム」の基盤
「生涯活躍」「地域包括ケアシステム」は、概ね中学校区、日常生活圏域ごとに住民等の主体的取組を活かす形で多様に展開されている。

- ・自治会（地区単位）
- ・生涯学習推進協議会
- ・学校運営協議会
- ・生活支援体制第2層協議体、見守り組織 等



△地区協議体における
地域課題の検討



▲地域高齢者による
サロンと野菜販売

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域の見守り組織を中心とした第2層協議体における地域課題の把握
- ほほえみセンターやささえ愛サロンにおける地域の居場所づくり

【今後の展開】

- 高齢者のみならず、全世代による支えあい体制の確立
- 多種多様な地域の居場所の増加と対象者の拡大、担い手の育成
- 交流拠点として廃校等の公有財産を活用

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 安心生活見守り事業、コミュニティ・スクール等に多くの高齢者が参加し、地域の主役として活躍
- シルバー人材センター等において高齢者の就労を支援

【今後の展開】

- 地域活動への高齢者の参加促進をベースに、世代間交流、移住者の受入れ等により、地域の活躍の場を拡大
- シルバー人材センターの活性化に加え、有償ボランティア等の活動拡大を目指す

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 介護予防事業として、与一いきいき体操やフレイル予防等の取組を各地域で「おたっしゃクラブ」として実施

【今後の展開】

- 認知症予防と運動を組み合わせたプログラムを各地域で展開
- 国際医療福祉大学と連携し、地域住民のデータを収集し、介護予防事業の効果を検証

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 空き家等情報バンク及び関連補助金等による空き家の活用
- 大田原市移住定住交流サロンによる移住体験事業を実施

【今後の展開】

- 地域の特色やニーズを踏まえた、サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームの誘致
- 未利用公有地を活用した分譲住宅地の整備

コミュニティへの人の流れ

- 大田原市移住定住交流サロンによる情報発信、移住体験、イベント等の実施
- 地域おこし協力隊による、移住者や移住希望者等と地域住民との関わり合いを促進

その他特徴的な取組

- 市内13地区の日常生活圏域において、高齢者支援にとどまらない地域全体の課題の把握とその解決策の話し合いが行われており、地域が主体となったまちづくりについて、議論が進められている

基礎データ

- ・人口：69,953人（R6. 4月時点）
- ・H29.3 「大田原市生涯活躍のまち構想」策定
- ・H31.3 「大田原市生涯活躍のまち基本計画」及び「大田原市生涯活躍のまち形成事業計画（市全域版）」策定
- ・R2.3 「佐久山地区生涯活躍のまち形成事業計画」策定
- ・R5.3 「大田原東部地区生涯活躍のまち形成事業計画」策定

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：群馬県 前橋市

◆コンセプト：「全世代活躍 みんなが主役のまちづくり」

「暮らし」、「介護と子育て」、「コミュニティ」、「生きがい創出」及び「医療とエネルギー」をまちづくりの柱として、周辺地域の魅力を高める世代を超えたコミュニティの拠点を目指す。

<特徴>

前橋赤十字病院移転後の跡地(H30.6移転)に居住、福祉、医療、健康増進及び商業等の施設を整備するとともに、企業等、大学及び行政の連携で、多様な利用者や地域等の生きがい創出及び交流促進に繋がる取組を進め、全世代のコミュニティ醸成と関係人口創出を図る。

<まちの運営イメージ>



<施設整備スケジュール>

- 令和2年度 施設設計（参考：旧病院建物解体R1～2年度）
- 令和3年度 施設整備
- 令和4年度 供用開始
（夜間急病診療所、福祉作業所は令和6年度より供用開始）

基・人口：329,585人（R6.4月時点）
礎・H28.3 県都まえばし創生プラン（地方版総合戦略）策定
デ・H28.8 地域再生計画認定、地方創生推進交付金事業採択
ー・H28.12 前橋版生涯活躍のまち構想策定
タ・R1.12 前橋市と民間事業者（公募で選定）で施設整備の事業契約を締結

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 高齢者施設、こども園、障害者施設の整備で、幅広い世代の利便性と相互連携を図る
- 多世代が交流する空間を整備する

【今後の展開】

- 複数の施設運営者の連携組織でエリアの魅力向上に向けた取組等のまちづくり活動を検討（コミュニティスペースや公園での多世代交流手法を検討）

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 大学や企業との連携によりコミュニティスペースで各種セミナーを開催し、生きがいにつながる活動を促す
- 商業施設等にて就労の場を確保する

【今後の展開】

- 前橋市創業センター、ジョブセンターまえばし、まちなかりノベーション物件等の起業、就労に関連した施設や仕組みとの連携を検討

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 健康増進施設を中心に健康づくり関連の取組を実施する
- 夜間急病診療所を整備することで、いざという時に備える

【今後の展開】

- 地域の大学や企業と連携した健康づくりプログラムを検討
- ICTを活用し、地域課題（市内で高齢化率が高い地域）への対応策を研究

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 戸建と集合の住宅整備で、様々なライフスタイルに対応する
- 商業など利便性向上施設の整備で、地域を含む人々の暮らしを支える

【今後の展開】

- 都内等からの移住ニーズを把握し、お試し移住などの仕組みづくりを検討
- 周辺地域の空き家活用について、関係機関等と検討

コミュニティへの人の流れ

- こどもから高齢者まで多様な人が集える場を整備するとともに、施設運営者、利用者及び住民などが、地域とともにイベントを開催するなどして交流のきっかけをつくる
- 前橋市移住コンシェルジュ等との連携で移住の選択肢としてPRする

その他特徴的な取組

- 複数の施設運営者で構成するまちづくり団体を組成し、ソフト事業に取り組むなどエリアマネジメントを検討
- 災害時にも機能維持できるようエネルギー管理を検討

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：埼玉県 秩父市

◆コンセプト：「総合的な移住政策」

幅広い年代を対象に移住・交流促進事業を展開。移住者だけでなく、以前からお住まいの市民もメリットを享受できるよう、生涯活躍のまちづくりに必要な基本機能を充実させていく。

<特徴>

計画推進当初から、多世代を対象とした「総合事業」と、アクティブシニアを対象とした「モデル事業」の二本柱で展開。姉妹都市である東京都豊島区と連携し推進。

◆事業イメージ

秩父市生涯活躍のまちづくり (秩父版CCRC)



総合事業 (移住・交流促進事業)

- 幅広い年代を対象
- 二地域居住の推進
- 関係人口の構築
- 移住相談センターの設置 など



モデル事業 (拠点整備事業)

- アクティブシニア対象
- サ高住・交流施設の整備
- 公民連携プロジェクト
- 地域交流事業の実施 など



(東京都豊島区との連携)



移住者だけでなく、以前からお住まいの市民もメリットを享受可能なまちづくり

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 公民連携「花の木プロジェクト」により「花の木交流センター」を整備 (R1.10)

【今後の展開】

- 移住者相互に加え、地域との交流事業を展開予定



「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 「秩父ビジネスプラザ」の開設 (コワーキングスペースなど)
- 県と連携したシニア就労支援
- 「ちちぶ学セミナー」の開講 など

【今後の展開】

- 生涯現役支援施策の展開
- 働き方改革と地方創生の連携 など



「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- ちちぶ版地域包括ケアシステムの展開 (秩父地域1市4町)
- 秩父市版健康マイレージ事業の実施 (H30～) など

【今後の展開】

- 地域包括ケアシステムの充実
- 健康マイレージ事業の充実 など



「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 公民連携「花の木プロジェクト」によりサ高住を整備 (R1.11)
- お試し居住住宅、市有住宅等による移住・二地域居住の推進 など

【今後の展開】

- サ高住「ゆいま〜る花の木」の入居促進 など



コミュニティへの人の流れ

関係人口の構築

- ・ 「秩父ファンクラブ」の運営
⇒ イベント等の実施を通じた関係人口の増加促進
- ・ 西武線沿線の自治体と共同した地域活性化事業への参画



その他特徴的な取組

東京都豊島区との連携

- ・ 姉妹都市連携を深化
- ・ 移住体験ツアー
- ・ 職員の相互派遣
- ・ 移住者に対する豊島区福祉サービスの継続提供検討 など



基礎データ

- ・ 人口：57,806人 (R6.4月時点)
- ・ H28.12「秩父市生涯活躍のまちづくり構想」策定
- ・ H29.3「秩父市生涯活躍のまちづくり基本計画」策定
- ・ 地方創生先行型交付金(先駆的事業分)、地方創生加速化交付金、地方創生推進交付金(H29.第1回、H30.第1回)を活用し、事業計画策定、候補地基礎調査、事業運営モデルの検討等を実施。

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：埼玉県 鳩山町

◆コンセプト：「生涯現役として活躍できるまち鳩山」

超高齢化のまち（シルバー타운）を、全ての世代の方が元気にいきいきと活躍する生涯活躍のまち（プラチナタウン）へ。

<特徴>

- 民間調査「街の幸福度ランキング2021・2022」で2年連続全国1位となるなど、幸福度の高い町。
- 少子高齢化が埼玉県内で最も進行。（高齢化するニュータウン地区）
- 充実した子育て環境（待機児童ゼロ、豊富な自然環境）
- 鉄道駅がないため、町が運営する公共交通が充実

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり（ニュータウン内に整備）

「交流・居場所」

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 交流サロンに、起業支援のまちづくりカフェを併設



【今後の展開】

- シェアオフィスをテレワークの拠点に
- まちづくりカフェへの日替わり出店者・出品者を、来館者で下支え

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 栄養・運動・社会参加の三本柱を強化する事業を推進
⇒埼玉県65歳健康寿命で、平成26・27・28・令和2年に男女ともに第1位。
(男性は平成26～令和2年の7年連続第1位)

【今後の展開】

- 栄養**⇒各種食事会などを実施
- 運動**⇒鳩山町健康マイレージ、大学等との連携
- 社会参加の推進**⇒健康づくりサポーター、健康ウォーカーなど町民組織の育成

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- コミュニティマルシェ内に、不動産団体と連携した移住推進センターを設置し、空き家バンクを運営
- 空き家を改修したシェアハウスを運用

【今後の展開】

- マッチングの強化（移住コーディネーター等の配置）
- シェアハウスの活用
- 「マイホーム借上げ制度」活用による賃貸物件の拡大（空き家利活用の推進）

コミュニティへの人の流れ

- 女性起業家がふるさと納税返礼品として提供しているチーズケーキがファンを増やし、関係人口の拡大に寄与
- 農家の女性は農産物をコミュニティ・マルシェで販売するほか、加工して、まちおこしカフェでランチとして提供するなど活躍（6次産業化へ貢献）

その他特徴的な取組

- 町内全域をドア・ツー・ドアで200円で走るとともに町外へも接続するデマンドタクシー、町外の2つの鉄道駅を結ぶ町営路線バスを運行し、環境に優しいSDGsのまちを進めている。
(交通死亡事故ゼロの継続年数15年)



【生涯活躍のまちのイメージ】



【楽しく気軽に集い交流できるサロン、物づくりや販売にチャレンジできる生涯活躍の場としてニュータウン内に整備したコミュニティ・マルシェ】



【ニュータウン内の学校跡地に官民で整備した福祉・健康多世代交流複合施設】

基礎データ

- ・人口：12,906人（R6年4月1日時点）
- ・H27.10 地方版総合戦略を策定
- ・H28.12及びH29.11地域再生計画認定により、地方創生加速化交付金・推進交付金・拠点整備交付金を受け、コミュニティ・マルシェを核とした生涯活躍のまち構想推進による鳩山ニュータウン活性化事業、ニュータウンに整備した拠点と各集落とを公共交通で結ぶ集落生活圏の維持活性化事業を実施。

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：千葉県 旭市

◆コンセプト：旭市にしかない・旭市ならではの

“魅力とライフスタイル”の創出・提供

- 旭中央病院を核とした医療・介護と農業の連携により、日本一の安心と生きがいのある暮らしを提供する「持続可能な多世代交流拠点」
- 多世代・多機能が混在し、共に支え、触発し合う「安心・生きがい・おもしろ創造空間」

＜特徴＞

- 診療圏人口100万人を誇る旭中央病院を核とした最高の安心の提供
- 高齢者だけではなく多様な人々が混在し共生する多世代参加型のまち
- 民間事業者グループが持つアイデアと活力を取り込んだ官民連携事業

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容】

- 多世代交流施設「おひさまテラス」の設置※
- ※生涯活躍のまち「みらいあさひ」の商業施設内に開設する公設民営の交流拠点施設

【今後の展開】

- 「遊ぶ・食べる・学ぶ・つくる・働く・育む」の6つの活動を柱に、子どもから高齢者まで全世代に対応した生涯活躍プログラムの検討・実施
- 生涯活躍プログラムを通じたまちづくり人材の育成
- 関係人口の創出と活用方策の検討・実施

「活躍・しごと」

【主な取組内容】

- 雇用の受け皿としての医療・介護資源の活用
- 生涯活躍のまち内の商業施設や介護施設等での地域雇用の創出
- 多様なつながりから生まれるスモールビジネス等の起業支援

【今後の展開】

- 市の施策及び市内事業者と連携した移住者の就労支援の検討・実施
- 医療・介護人材をターゲットにした移住PR活動の実施、医療・介護人材の育成
- 起業ニーズの掘り起こしと支援策の検討・実施
- エリアの魅力向上に向けたエリアビジョンの検討・策定

「健康」

【主な取組内容】

- 「Wellness Town」の提供
- 旭中央病院と連携したクリニックモールの開設
- 健康増進施設の設置

【今後の展開】

- 「医療提携による健康の見える化」の枠組み構築・施設運営者間の連携による健康増進・介護予防イベントの検討・実施
- ・クリニックモール、旭中央病院の連携による安心の提供

「住まい」

【主な取組内容】

- 一般移住者向け、アクティブシニア向けなど各世代のニーズに合わせた住まいの提供
- 特別養護老人ホームの提供

【今後の展開】

- 移住促進事業の実施及び情報発信の強化
- 各世代の的確なニーズ把握及び情報収集
- 事業推進主体の住宅メーカーによる不動産の有効活用の提案や地域金融機関グループによる資金調達の相談など金融面からの移住サポートの検討

コミュニティへの人の流れ

- 多世代交流施設内での活動を起点としたコミュニティ形成の橋渡し役となる人材の育成
- 地域おこし協力隊等による、移住者や移住希望者等のネットワークづくり
- 多様な媒体を活用した情報発信
- 多世代交流施設に設けるコワーキングスペースを活用したサテライトオフィス、ワーケーション等の誘致

その他特徴的な取組

- 民有地（農地）への民間開発誘導
- インフラ整備等に対する市からの財政支援
- Win-Winの関係性を重視した官民連携
- 豊富な情報ネットワークを有する地域金融機関グループによる事業推進支援
- 事業推進主体で組織するエリアマネジメント組織「一般社団法人みらいあさひ」の設立



基礎データ

- ・人口:62,266人（R6.4月時点）
- ・H28.3 旭市総合戦略策定、H29.11・R3.3地域再生計画認定
- ・地方創生先行型交付金(H27)・地方創生推進交付金(H29～R1):事業構想策定・都市住民ニーズ調査・移住セミナー等の実施、地方創生推進交付金(R3～R5):まちづくり人材育成等
- ・事業推進主体:イオンタウン(株)を代表事業者とするグループ
(構成員:大和ハウス工業(株)千葉中央支社、阿部建設(株)、(株)楽天堂)
- ・事業推進コーディネーター:(株)ちばぎん総合研究所

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：千葉県 匝瑳市

◆コンセプト：
「あらゆる人々を地域・多世代交流・協働で支えるまち」

子どもから高齢者まで、年齢や健康状態、障害の有無に関わらず、あらゆる人々が交流し、協働することにより、これらの人々を地域全体で支えるまちをつくる

<特徴>

- 健康を増進し、また、趣味・ボランティア等の生きがいや、地域との交流など、人との関わりを促進する。
- 地域の人々の日常生活を支える。



- 基礎データ**
- ・人口：33,594人（R6.4月時点）
 - ・H29.6 地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業関係）認定
 - ・地方創生加速化交付金・地方創生推進交付金（H29.第1回）を活用し、協議会の開催、住民説明会などを実施。
 - ・地域再生推進法人：社会福祉法人九十九里ホーム（H29.7指定） 匝瑳市版生涯活躍のまち形成事業の推進
 - ・匝瑳市版生涯活躍のまち形成事業計画の策定（R2.3）

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】
○地域交流拠点施設内に「暮らしの総合相談室」を設置

【今後の展開】
○生涯学習講座等の実施
○医療・介護に関する研修等の実施

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】
○地域交流拠点施設内に生涯学習拠点や就労支援窓口を設置

【今後の展開】
○しごと・求人・ボランティア説明会等の実施
○「飯倉駅前地区まちづくり協議会」で活躍の場の創出等について協議

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】
○サービス付き高齢者向け住宅内に訪問看護ステーションを、地域交流拠点施設内にサテライトクリニック等を整備

【今後の展開】
○訪問看護ステーションの運営
○サテライトクリニック等の開設検討

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】
○サービス付き高齢者向け住宅の整備等

【今後の展開】
○サービス付き高齢者向け住宅の運営

コミュニティへの人の流れ

- お試し居住(サービス付き高齢者向け住宅内)等の実施
- 生涯活躍のまちのプロモーション（フリーペーパーの作成・都内での配布等）の実施

その他特徴的な取組

- 各施設(特に、地域交流拠点施設)を中核として、移住者と地域住民が、子どもから高齢者まで、多世代にわたり交流し、協働することのできるシステムを構築し、誰もが生涯にわたって活躍し、生涯住み続けたいと思うまちづくりを進める

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：千葉県 長柄町

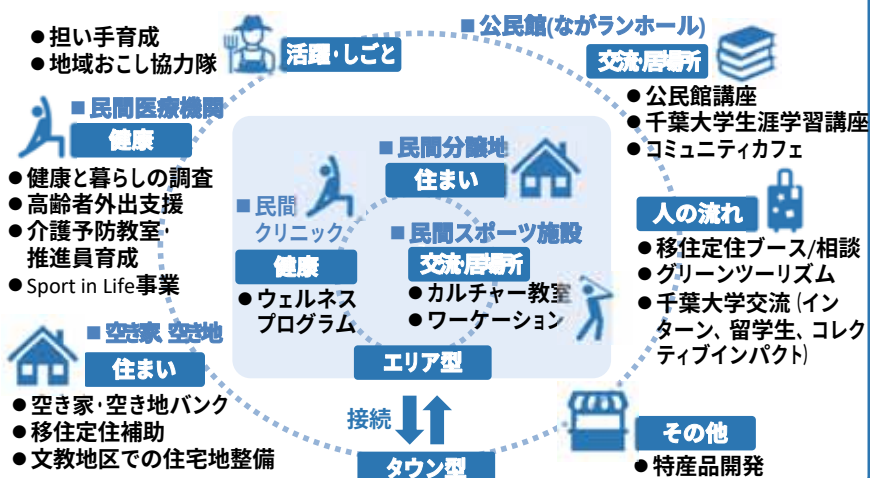
◆コンセプト「暮らしているだけで健康になる全世代活躍のまちづくり」

豊かな自然環境と首都圏からの地理的優位性を強みとし、本町への移住・定住を推進するとともに、地域住民が健康で暮らしやすいまちづくりに取り組む長柄町版大学連携型CCRCを推進。

<特徴>

- 町内企業・長柄町・千葉大学との産官学連携
- 地域資源を活かした、「エリア型・タウン型」のCCRC
- 多彩なコミュニティの醸成による活力あるまちづくり
- 千葉市をはじめとした地域間連携の促進

長柄町版大学連携型CCRC「暮らしているだけで健康になる全世代活躍のまちづくり」



千葉大生と地域住民が
学び合う生涯学習講座



高齢者外出支援・介護
予防教室



R5年5月長柄町新公民館
「ながランホール」開館

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 公民館講座(新公民館「ながランホール」開館)
- 千葉大学公開講座の開催 (R5・1回18名)
- 千葉大学エコキャビンを活用したコミュニティカフェ (R5・4回150名)

【今後の展開】

- 全世代の憩いの場となる
街区公園の整備

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- アクティブシニアの町役場での雇用 (R5・1名)
- 地域創生に係る町職員の育成 (R5・10名)
- 地域おこし協力隊の受入 (延4名)

【今後の展開】

- 地域おこし協力隊による
特産品の販売、情報発信

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 健康と暮らしの調査 (R4・1,489名)
- 高齢者外出支援事業(健康ポイントR5・579名)
- 介護予防教室・推進員育成
- 介護職員初任者研修事業(資格取得11名)
- スポーツ庁Sport in Life事業 (R4受賞1件)

【今後の展開】

- 町全体の健康増進と
スポーツ振興
- 健康と暮らしの調査の継続
- 介護人材の育成推進

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 長柄町空き家・空き地バンクの推進
(登録物件数延127件、登録利用者数延550件)
- 全国版空き家空き地バンクの活用
- 空き家バンク登録促進事業補助金 (R5・7件)
- 住宅新築補助金 (R5・3件)

【今後の展開】

- 補助制度の拡充・見直し
- 文教地区での住宅地整備
- 町内の空き家に関する調査
- セルフビルドヴィレッジ化構想

コミュニティへの人の流れ

- 農業体験(グリーンツーリズム)の実施 (R5・254名)
- 移住定住コーディネーターによる移住定住相談 (R5・1,096件)
- お試し居住の実施 (R5・0件)
- 千葉大学インターン生受入 (延4回・14名)
- 千葉大学留学生出張授業 (R5・9名)
- 地域間連携事業「稲毛コレクティブインパクト」による交流事業の実施 (R5・0件)

その他特徴的な取組

- 千葉大学と町内3事業者による特産飲料「ながらとガラナ いろはにほへと」の開発。道の駅、駅売店等で販売(累計95,000本)
- 地方創生人材支援制度を活用したタウンアドバイザー(千葉大学)の設置

- 基礎データ**
- ・人口：6,288人 (R6.4.1時点)
 - ・H29.3長柄町版大学連携型生涯活躍のまち構想策定、H30.11地域再生計画(生涯活躍のまち形成事業関係)認定
 - ・地方創生加速化交付金を活用し、セカンドキャリア支援プログラム策定、健康寿命延伸プログラム策定、空き家実態調査、統合型地理情報システム導入、長柄町版大学連携型生涯活躍のまち構想策定を実施

◆コンセプト：

おんじゅく まるごと 生涯活躍・安心のまち

御宿町に暮らす者並びに訪れる者が、年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、皆が心豊かに暮らすことのできる「生涯活躍のまち」を目指す。

<特徴>

- まち全体が活躍の場・移住者を含む地域住民が主役
- 生涯にわたる安全安心と健康づくり
- まちの宝である地域資源と人材のフル活用

おんじゅく まるごと 生涯活躍・安心のまち



◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 多世代交流施設「かぐや」「ふれあいの家」の設置及び運営に携わるボランティア組織の結成

【今後の展開】

- 交流サロンの利用による多世代交流が進むことによるコミュニティの拡大
- 関係者の中から人材が集まり、組織された団体による地域が抱える問題の解決

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 特産品の開発施設「レリッシュ東南風（いなさ）」の設置
- シェアオフィス「HAMA OFFICE」の設置

【今後の展開】

- 地域おこし協力隊による施設を活用した特産品の開発・現地販売による関係人口の拡大
- 人材育成による団体の設立
- ワーケーションやテレワーク移住の促進

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 大学と連携した「寄茶場（よっちゃば）」事業の実施

【今後の展開】

- 大学と連携することによる知識・技術・人材の提供と継続的な活動の確保
- 大学と携わる地域住民による協働・自主運営
- 健康で幸せな場としての継続的な活動

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 空き家バンク制度の周知・強化
- 空き家家財道具等処分補助金の対象拡大

【今後の展開】

- コロナ禍による地方移住の流れに対応するため移住促進や関係人口の創出を図る

コミュニティへの人の流れ

- 交流サロン等や各団体の活動による多世代交流等住民の交流の創出
- 特産品の現地販売による関係人口の拡大

その他特徴的な取組

- 高齢化に伴う買い物が不便な方のための移動スーパーの運用
- 移住交流促進事業（特色ある教育プログラム）として、小中学生を対象に予備校の講師を招いての授業を実施

- 基礎データ
- ・人口：7,169人（R4.4月時点）
 - ・H27.10 御宿町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定、H30.3 地域再生計画認定（生涯活躍のまち形成事業）
 - ・地方創生加速化交付金を活用し事業構想策定。地方創生推進交付金（H30～R2）を活用し多世代交流事業・特産品の開発事業・移住交流促進事業等を実施。（高齢化率 51.63%）

◆コンセプト：「全ての人が輝くまち みようこう」

妙高市に住んでいるかただけでなく、ふるさと妙高を想うかたや訪れるかたとのつながりを大切にしながら、地域内外の支え合いにより、全ての人が輝き、真の豊かさを実感しながら、生活できるまちを創造する。

<特徴>

地域の主体的な取り組みを推進しつつ、国内外からの移住者や都市部住民との関わりを活かして、生涯活躍のまちを推進する。



- 基礎データ**
- ・人口：29,671人（令和6年3月31日時点）
 - ・地域運営組織への支援、移住定住の推進を強化するため、R2年度に地域共生課を設置。
 - ・ワーケーションやワークシェアリング、ビジネスマッチングの推進について、R2年度から地方創生推進交付金を活用し事業を実施。
 - ・平成29年度に「妙高版生涯活躍のまち」基本計画を策定。

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域主体で支え合う地域運営組織の設立・運営を支援
- 組織の拠点となる施設の整備・改修を地域と協議

【今後の展開】

- 高齢化が進む2地区をモデル地区とし、アドバイザーを加え、組織化を推進
- 妙高支所を改修し、地域コミュニティの拠点の利用促進

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 高齢者や女性等の時短雇用希望者に対する雇用機会の仕組みを検討
- シルバー人材センターの会員拡大

【今後の展開】

- テレワークを活用し市内外企業からアウトソーシングされた業務を受注する仕組み（ワークシェアリング）を構築

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 70歳対象の健康調査を実施し、虚弱高齢者等に筋力向上サービスを提供（市内3地域に筋力トレーニングの場を設置）

【今後の展開】

- 高齢者の健康増進を図る場として、まちかど・スポーツ・サロン等の運営のほか、「地域の茶の間」を活用し、地域単位でフレイル予防や世代間交流を推進

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 移住・定住のため、住宅等の取得に対する資金的支援を実施
- 空き家登録制度により、中古住宅の活用を推進

【今後の展開】

- 居住誘導区域にサービス付高齢者住宅等の誘致
- 居住誘導区域内の未利用土地を宅地造成するための資金的支援

コミュニティへの人の流れ

- 地域支援員を配置し、空き家等の紹介などの相談体制の強化と、移住への資金的な支援により、県外及び国外からの移住が増加（地域コミュニティへの参加、移住者のスキルを活用する仕組みづくりを強化）

その他特徴的な取組

- 首都圏からの関係人口を創出するため、ワーケーション事業を展開する受入体制を整備するとともに、テレワークセンターを整備し、首都圏企業の人材と市内企業とのビジネスマッチングにつなげていく。

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：新潟県 南魚沼市

◆コンセプト：「健康-予防医療の先進的なコミュニティ」

地域特性を活かした展開により移住者を取り込み、地域に不足するリソースを提供してもらうことで、新たな産業や雇用が創出され、地域サービスが向上することで好循環を生み出す。

<特徴>

- 充実した生活インフラ（新幹線駅、高速IC、病院）
- 特徴的な大学（国際大学、北里大学保健衛生専門学院）
- 自然（雪）の育み（食、衣、文化、交流）



魚沼基幹病院



国際大学



ウィンタースポーツ

基礎データ

- ・人口：52,926人（R6.4月時点）
- ・H27.7 南魚沼版CCRC構想を策定、H27.10 地方版総合戦略を策定、H29.6 地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業関係）認定。（現在計画は終了している。）
- ・H29.4月地域再生推進法人指定：一般社団法人 南魚沼市まちづくり推進機構

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- ウィンタースポーツ、登山愛好者を中心とする住民交流の場づくり
- 若者交流パーティーの定期開催

【今後の展開】

- 全世代の交流やシェアリングエコノミーを推進することで、個々の課題を住民同士が解決できる仕組みの構築

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域再生推進法人によるワンストップ就労支援窓口の設置
- 起業を促す事業創発拠点の開設と産官学連携による公開講座

【今後の展開】

- アクティブシニアや若手人材による起業の促進
- 官民連携により若者のUターンを促進し、市内企業の人材や地域の担い手確保

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域包括ケアシステムの構築を進めるとともに、圏域内の医療・介護連携を電子情報共有により効率化

【今後の展開】

- ウィンタースポーツ、登山、自転車などのアクティビティによる健康増進を図り予防医療の充実を目指す

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 官民連携による物件情報提供体制を構築
- 住宅の小規模改修支援（子育て世代には優遇あり）

【今後の展開】

- 民間主導によるリノベーションした空き家の有効活用や起業を促すチャレンジショップを展開

コミュニティへの人の流れ

- 南魚沼産コシヒカリによる農業体験・農業従事者増加の取組
- ウィンタースポーツやアウトドア愛好者をターゲットとした首都圏セミナーによる交流促進
- 雪を夏期イベントの暑さ対策として活用することで、冬に限らない交流の推進

その他特徴的な取組

- 人材確保を主眼に置く、市内企業の紹介動画を取りまとめることで、魅力を伝え、若者のUターンを促進する取組を官民連携で実施
- ふるさと納税の書類発行業務等を地域再生推進法人に発注し、自走の仕組み
- 地域再生推進法人による事業創発拠点の運営

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：石川県 輪島市

◆コンセプト：「タウン型生涯活躍のまち」

市街地の空き家や空き地を活用し、多世代交流施設やサービス付き高齢者向け住宅などを配置。青年海外協力協会の人材を活用し、地域課題を自ら解決できる住民自治機能の形成など、住民によるまちづくりを通じて多世代の移住者等の受入環境づくりを目指す。

- ＜特徴＞
- 空き家や空き地などの既存ストック活用
 - 国際的感性を持つ青年海外協力協会の人材活用
 - 住民自治機能の形成と移住者等受入意識の醸成



基礎データ

- ・人口：22,079人 (R6.4.1時点)
- ・地方創生先行型交付金 (先駆的事業分)・地方創生加速化交付金を活用し、移住者募集広報、事業計画策定、CCRCプログラム構築などを実施。交流拠点施設の整備には都市再構築戦略事業の交付金を、ウエルネス、ショートステイ、子育て支援施設の整備には空家再生等推進事業の交付金をそれぞれ活用。

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

- 【主な取組内容・進捗状況】
- 地域交流施設を核とした交流・外出機会等の創出、住民自治活動への参画促進



【今後の展開】

- 地域住民や近隣の商店会と連携し、各種イベント等を通じて交流を図る

「活躍・しごと」

- 【主な取組内容・進捗状況】
- 就労の場の創出
 - ・地元雇用の増加
 - ・障害者の就労の場の確保 (就労継続支援A型/B型)



【今後の展開】

- 配食サービスセンターや飲食店等を整備し、さらなる就労の場を創出

「健康」

- 【主な取組内容・進捗状況】
- 健康促進施設 (ウエルネス) の整備・運営
 - 交流拠点施設を核とした見守り体制整備
 - 地域包括ケア体制との連携



【今後の展開】

- 生活困窮者及び高齢者の体力維持活動を中心とした地域交流の場としての機能の向上を目指す

「住まい」

- 【主な取組内容・進捗状況】
- サービス付き高齢者向け住宅の整備 <全6戸> (就労環境、地域交流機能付)
 - 多様な人を集めるためのグループホーム、短期入所施設の整備



【今後の展開】

- 将来的な取組としてサービス付き高齢者向け住宅をはじめ、移住者用の居住施設の確保
- 障害者向けグループホームを追加整備

コミュニティへの人の流れ

- 本プロジェクトにより、J O C A の隊員やその家族などが輪島に移住
- 生涯活躍のまちづくりに関する視察の受入れ等による関係人口の増加
- ※自治体・事業所・関係機関など多数
- 大学生のインターンシップ受入れ等による若者世代との交流促進

その他特徴的な取組

- 輪島カブーレの第2拠点施設として市内空き店舗を改修したゲストハウス (簡易宿泊所) がオープン。国内外の観光客をはじめ輪島を訪れる人との交流の場としての活用を期待



全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：山梨県 都留市

◆コンセプト：大学連携型「生涯活躍のまち・つる」の実現

- ①市内に3つの大学等が立地するという強みを活かし、「大学コンソーシアムつる」を組成
- ②大学相互の連携を深めるとともに、市民向けに「目標指向型」の「生涯学習プログラム」を提供
- ③都留文科大学卒業生等をターゲットとし、住み替え支援（二地域居住等含む）を展開

<特徴>

人口3万人規模の市に、3つの高等教育機関（県立、公立大学法人、私立）が立地するという強みを活かし、学生・高齢者・若者・子どもが活躍し、移住者からも市民からも「魅力的なまち」と実感いただける「市民全体の豊かな暮らし」を目指します。



市内2つのプロジェクトを推進

ストック（旧雇用促進住宅）活用の「単独型居住プロジェクト」と、都留文科大学キャンパス近くに新規開発の「複合型居住プロジェクト」の2つのプロジェクトを推進。

すでに「単独型居住プロジェクト」は事業者により事業実施中（R1.9～）であり「複合型プロジェクト」については地域交流拠点「NICOT」が先行オープンした（R5.4～）。



○複合型居住
「NICOT」
田原交流センター



○単独型居住
「ゆいま
る都留」

大学コンソーシアムつる

3校が連携し、生涯学習プログラム（まち魅力向上）、地域貢献事業（地域活性化）、相互の連携交流（大学質向上）など、「生涯活躍のまち・つる」の特色を強化する取組を実施。



○学生主催
「産官学連携イ
ンキュベーション
プログラム」

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 市内下谷地区のサ高住に、地域交流センターを整備
- 各地域交流センターを中心に移住者と地域住民との交流会を開催

【今後の展開】

- 既存の施設を利用して、移住者・地域住民・学生・高齢者など多世代が交流できる機会の創出
- 複合型居住PTでは、子どもから高齢者まで、多世代が活用できる機能を整備

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- R2に推進協会の後継法人を立ち上げ、地域再生推進法人に指定
- 当該法人を中心に生涯学習プログラムや仕事づくりの取組を実施

【今後の展開】

- 起業、人材育成、産業振興を目的としたインキュベーションとマッチング機能を備えたプラットフォームの創設
- 全世代が安心してやりがいを感じるここのできる仕事づくりと企業誘致・起業支援の推進

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 健康維持・増進と多世代交流の拠点として健康ジムを開設
- 健康教室や健康プログラム（健康増進・介護予防業務）を開催

【今後の展開】

- 市内の各地域で、多世代が参加できる健康プログラムを開催できるよう、実施場所や機会の拡大を図る
- 高齢者の通いの場としての健康づくり支援事業「いーばしよ」事業を実施

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 旧雇用促進住宅を、事業者がサ高住に改修し運営（単独型PT）
- 市有地にサ高住等複数施設を複合的に整備中（複合型PT）

【今後の展開】

- 単独型PTは、R1.9末にサ高住「ゆいまる都留」（2棟80室）が完成、市内外から居住し、ほぼ満室。
- 複合型PTの交流拠点NICTを中心に多世代が集う場として周辺エリアを整備

コミュニティへの人の流れ

- 「デジタル都留市民」を開設し、関係人口を中心としたオンラインコミュニティを形成
- お試し居住もできる移住・定住相談センターを整備するとともに、各交流拠点利用者がコミュニティに参画するための支援を行っている

その他特徴的な取組

- 企業版ふるさと納税（人材派遣型）制度の活用
- 地域活性化起業人制度の活用
- 地域再生推進法人が主体の事業を展開
- R3.8セーフコミュニティ国際認証取得
- R4.7市民大学「シリウスカレッジ」開講

基礎データ

- ・人口：28,346人（令和6年3月末時点）
- ・H27.10 都留市版 生涯活躍のまち事業を盛り込んだ都留市総合戦略を策定、H28.8、R2.11地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業関係）認定。
- ・地方創生先行型交付金（基礎分・先駆分、地方創生加速化交付金、地方創生推進交付金（H28.第1回）、地方創生拠点整備交付金（H28.第1回）を活用し、都内に窓口設置、移住ニーズ把握、お試し居住、交流拠点、健康ジムなどを整備。
- ・H30.7設立の「生涯活躍のまち・つる推進協会」（以下「推進協会」）の後継団体「一般社団法人 まちのtoolbox」がR2.1に発足

◆コンセプト：「人生100年型多世代交流コミュニティの実現」

このまちにきたい、住みたい、住みたいと思える人が増えるように、地域の魅力を高め、誰もが居場所と役割を持ち、つながりを持って支え合う地域づくりに取り組み、地域活力の確保や安心な暮らしの確保を目指す。

- ＜特徴＞
- ◆ 誰もが活躍できる地域共生社会（ごちゃまぜ）の実現
 - ◆ 地域特性を活かし、新たな人の流れをつくる
 - ◆ リニア開通を見据え、ブランディング、街なかの整備



基礎データ

- ・人口：31,213人（R6年4月1日時点）
- ・H31.2月駒ヶ根市版総合戦略改定（生涯活躍のまち明記）
- ・R1.8月駒ヶ根市版生涯活躍のまち構想策定
- ・デジ田交付金（地方創生推進タイプ）（2024.第1回）の活用
- ・地域再生推進法人：公益社団法人青年海外協力協会を指定（R1.9月）、市と協働で事業実施中

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

地域再生推進法人＝青年海外協力協会JOCA

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 交流拠点整備 ※地域再生推進法人 ウェルネス、市民活動支援センター、小規模保育所
- 外国籍市民との交流促進（多文化共生）
- 市民団体交流促進

【今後の展開】

- 関連施設をまちなかに集中整備
- 交流拠点施設の活用
- 大使村プロジェクト

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 交流拠点を活用した就労の場の創出（就労継続支援A型・B型）
- 多様な人の雇用機会の拡大
- お互いに関わり合う場づくり

【今後の展開】

- 多機能型事業所ゴチャ!ウェルネス等
- 働く人の環境に合わせた雇用の中間体制構築
- 若者の活躍の場づくり＋ウミガメプロジェクト
- 学びの場づくり、まちゼミ
- 人材活用・人材育成

「健康づくり」

【主な取組内容・進捗状況】

- ウェルネスの活用
- こまがね健康ステーション連携
- 地域包括ケアシステム連携

【今後の展開】

- ウェルネスとこまがね健康ステーション連携による健康増進
- 食と健康 まちなか滞在プログラム作成
- つれてってカード、長野県看護大学連携事業の構築

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 関係人口づくりと合わせたゲストハウス、お試し居住の整備
- まちなかへの住み替え支援

【今後の展開】

- ゲストハウス（民間）連携
- 立地適正化計画連動した住み替え支援検討
- 空き家活用の検討

コミュニティへの人の流れ

- 信州駒ヶ根暮らし推進協議会連携
官民連携による移住相談、マッチング
- 教育旅行、ワーケーション推進（関係人口拡大）



- ・学校や企業と連携した人材プログラム
- ・テレワーク環境の整備
- ・まちゼミの開催
- ・地域おこし協力隊活用

その他特徴的な取組

＜地域特性を活かす、ブランディング＞

- アルプスに代表される観光資源
- JICA駒ヶ根の所在と積み重ねられた国際交流の実績
- こまがねテラス
- 大使村PJの推進
- まちなか遊休資産活用
- 効果的な情報発信
- ※市民もアルプスのまちを楽しむ機会の提供



駒ヶ根市版生涯活躍のまち構想 概要 (2019.8)

コンセプト：人生100年型多世代交流コミュニティの実現

このまちに来たい、住みたい、住み続けたいと思える人が増えるように、地域の魅力を高め、誰もが居場所と役割を持ち、つながりを持って支え合う地域づくりに取り組み、地域活力の確保や安心な暮らしの確保を目指す。

【基本方針】

- (1) 誰もが活躍できる地域共生社会（ごちゃまぜ）の実現
- (2) 持続可能な地域づくりに向け、地域特性を活かした取り組みを促進し、新たな人の流れをつくる
- (3) リニア開通を見据え、関係人口増に向け中心市街地の整備を進める



1 多世代・多文化交流の促進

【目標】 世代や国籍を超えて、障害を持った方、ケアが必要な方も、様々な人と人がつながりあう機会を増やすことで、地域共生の機能を高める。

○交流拠点整備 ○大使村構想推進

4 移住定住促進

【目標】 移住者向け住まいの整備や立地適正化計画の推進など、時代に合った住まいの整備が進められるよう関係機関との連携を強化する。

○信州駒ヶ根暮らし推進協議会連携 ○ゲストハウス ○お試し居住 ○住まい整備

2 新たな人の流れ（学びの場づくり）

【目標】 若い世代の流出に歯止めをかけると共に、青年海外協力隊や大都市圏の企業等と連携し、将来のライフスタイルの変化に合わせた環境作りを進め、関係人口を増加させる。

○ワーケーション推進 ○地域おこし協力隊活用 ○まちなか塾

5 健康増進

【目標】 日々の関わり合いによる健康増進に加え、住民が自ら予防的な活動を行う機会を増やしていくとともに、ケアが必要になった場合でも地域で暮らし続けられる環境を整備する。

○こまがね健康ステーション ○ウェルネス ○多世代交流 ○活躍の場（居場所）づくり

3 活躍の場づくり

【目標】 就労、ボランティア、生涯学習といった積極的な機会に加え、関わり合いや支え合いのなかで役割や生きがいを感じられる機会を増やす。

○交流拠点活用 ○多様な雇用創出 ○市民団体交流促進

6 地域の魅力を高める

【目標】 中心市街地を核に、アルプスの映えるまちとして、市外の人はもちろん、駒ヶ根で暮らす人が地域を楽しみ、誇りを持てるまちづくりをすすめる。

○こまがねテラス連携 ○大使村構想推進 ○まちなか塾

（施設整備や事業展開の考え方）

施設整備や取り組みを中心市街地に集約させることで社会資源の密度を高め、事業の推進力、成果を最大化させる。そのため、様々な施策や活動の縦割りを乗り越え複合的な事業展開を行う。

（事業実施体制）

事業運営主体となる地域再生推進法人として、（公社）青年海外協力協会（JOCA）を指定する。JOCAは関連する団体等との連携を図り、市内一丸となってプロジェクトが推進されていくための中核機能を担う。

◆コンセプト：一人ひとりがいきいきと暮らせるまち「いいづな」

町内に住むあらゆる世代が生涯にわたって、いきいきと暮らすことができる社会をつくるため、「健康づくり」や「生きがいくづくり」を推進し、元気に楽しく暮らすことのできる夢と希望にあふれる町を目指す。

<特徴>

- 地域住民が主体となった健康づくりへの取組の実施
- 各施設を中心とした多世代交流・生きがいくづくりの推進



完成した多世代交流施設「メーラプラザ」



移住サポート施設「ZQ」での移住者交流会



多世代交流施設「メーラプラザ」でのパワーリハビリテーション

- 基礎データ**
- ・人口：10,315人（R6年4月1日時点）
 - ・H27.10飯綱町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定
 - ・H29.3飯綱町生涯活躍のまちづくり推進計画策定
 - ・H28から地方創生推進交付金を活用し、健康づくり・生きがいくづくりなどを推進
 - ・R2.3飯綱町多世代交流施設「メーラプラザ」完成

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 多世代交流施設の整備
- 移住者の交流促進

【今後の展開】

- 多世代交流の拠点として様々なイベントや講座等を開催し、交流を推進
- 移住者と町民とのコミュニティ形成及び官民が連携したリユース事業の推進

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域資源を活用したしごと創り支援事業の実施
- テレワーカー育成支援事業の実施
- 移住者の就労支援として「移住者受入協力企業」制度の実施

【今後の展開】

- 企業誘致・雇用創出・創業支援を推進し、関係人口や地域経済の活性化を図る
- 廃校舎のリノベーション施設である「いいづなコネクト」にテレワークの組織を立上げ、就労機会や情報を提供し、人材育成も推進

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- パワーリハビリテーションの普及・運営支援の実施
- 運動と食をテーマにしたプログラム「いきいき健康教室」実施

【今後の展開】

- パワーリハビリテーションの拠点整備及び運営体制の構築
- 地域交流をメインとした食の学び・健康増進・生きがいくづくりを推進

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 移住支援として中古住宅の購入・家賃等の助成支援の実施
- 空き家・空き地バンク事業の実施
- 移住定住サポーター制度の実施

【今後の展開】

- 新築住宅に対する助成制度を創設するなど、移住支援とあわせて定住促進を図ることで持続可能な集落機能の維持を目指す
- 移住トータルコーディネートの体制構築

コミュニティへの人の流れ

- 多世代交流施設にパワーリハビリテーションや交流施設を整備し、健康や交流の促進につなげていく
- 駅前の空き施設をリノベーションし、移住者や町民の交流会等を開催するなどコミュニティづくりを推進

その他特徴的な取組

- 廃校舎をリノベーションし、しごとや自然体験等をコンテンツに都市部と地方との交流を促進
- 民間の力を活用し、民間賃貸住宅建設に係る助成制度の創設
- 地域の高校と連携した地域づくり事業の実施

◆コンセプト：生涯活躍、健康長寿延伸、地域活性化 の達成により「健康長寿のまち」を推進

地域の誰もが、健康でアクティブな生活や社会活動への参加などを通じて生涯活躍できる環境づくりに取り組み、これにより「子どもの育ちと長寿を支えるまち」～誰もが住み慣れた地域でできる限り健康で自分らしく暮らすことができるまち～を推進

<特徴> 市内2地区で事業を展開

- 駿河共生地区では、静岡市地域福祉共生センター「みなくる」を中心として、地域・多世代の交流や地域福祉の推進等を実施
- 葵おまち地区では、札の辻クロスを中心として、移住支援、人口減少対策等を実施

駿河共生地区のイメージ



駿河共生地区 拠点施設
(静岡市地域福祉共生センター「みなくる」)

葵おまち地区のイメージ



葵おまち地区 拠点施設
(札の辻クロス)

人口：676,607人（R6.3月時点）

- 基礎データ**
- ・H28.11 地域再生計画（生涯活躍のまち静岡構想推進計画）の認定
 - ・H28 地方創生推進交付金（H28～30年）を活用
 - ・H29 地方創生拠点整備交付金（H29年）を活用
 - ・H30.03 生涯活躍のまち静岡推進事業計画を策定
 - ・H30.06 生涯活躍のまち静岡（CCRC）駿河共生地区がオープン
 - ・H30.10 葵おまち地区がオープン

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 拠点施設の会議室・ホール等で、大学や関係団体などとも連携しながら多彩な講座やイベントを実施
- 遊休市有地を活用した民設民営による地域・多世代交流型住宅内の地域交流スペースで地域住民を対象とした講座・イベントを実施



「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 静岡市誰もが活躍推進協議会を設立し、市・関係団体が連携しながら高齢者就労を促進
- 市役所2階にシニア向け就労サポート窓口を開設し、個別相談や就労の情報をワンストップで提供



「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 静岡伊勢丹と協定を締結し、静岡伊勢丹「ウェルネスパーク静岡」内で健康に関するイベント等を開催
- 血圧、体組成など測定できる健康ステーションを「みなくる」に設置し、管理栄養士や保健師の資格を持つ相談員が健康や栄養への相談や測定をサポート



「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- JR静岡駅前の中心市街地での過ごしやすさ等の体験機会を提供するため、市内への移住を提案するお試し住宅を実施
- 駿河共生地区内にサービス付き高齢者向け住宅（80戸）・一般向け賃貸住宅（12戸）を併設する地域・多世代交流型住宅を民設民営により整備・運営



コミュニティへの人の流れ

- プロモーション活動（市ゆかりの首都圏在住者へのDM、チラシの配布、X（旧Twitter）・特設HP等でのPR）
- お試し住宅を実施

その他特徴的な取組

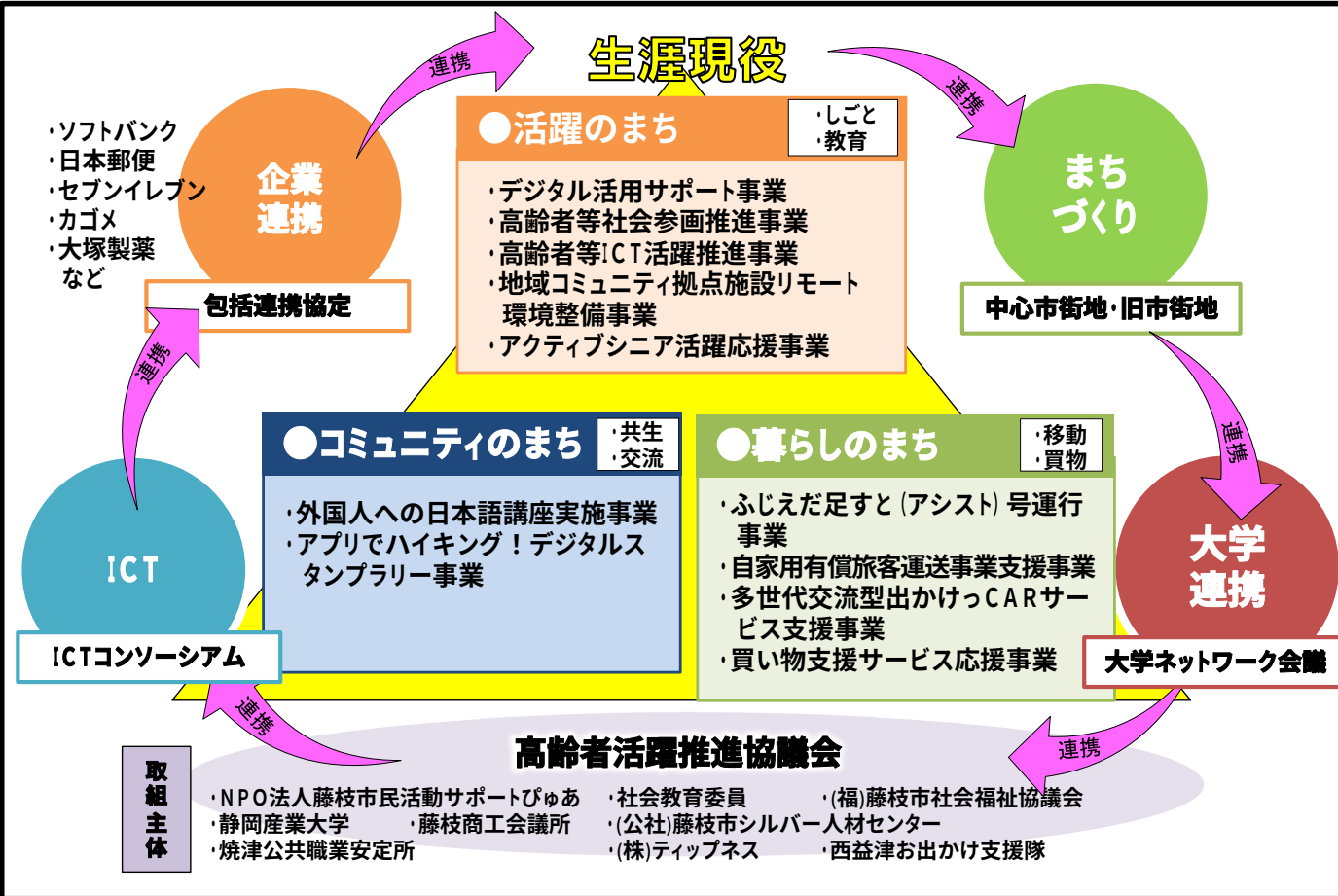
- 「葵おまち地区」のその他の特徴
認知症の方やその家族に対する総合的な支援窓口「認知症ケア推進センター」も開設
- 「駿河共生地区」のその他の特徴
遊休市有地を活用した民設民営による児童発達支援センター、重症心身障がい者対応生活介護事業所も開設

◆コンセプト：生涯現役・いつまでも幸せに暮らし輝くまち藤枝プラン

「藤枝版コンパクト+ネットワーク型C C R C高齢者が活躍するまちづくり（2019年度～2021年度）」を通して生まれた新たな課題と本市を取り巻く環境の変化に対応し、全世代型の循環モデルを創出するため、先駆的に進めるI C T・デジタル活用や大学連携など多分野と連携することで持続可能な「藤枝型共生のまちづくり」を推進する。

<ポイント>

- (1) 誰も取り残さないD X推進による多世代活躍
- (2) 支え支えられる移動手段の確保などによる暮らしやすいまちづくり
- (3) 多文化・多世代共生を実現する地域コミュニティ



基礎データ

- ・人口：140,365人（R6.3月末時点）
- ・R4.3月地域再生計画認定（生涯現役・いつまでも幸せに暮らし輝くまち藤枝プラン）
- ・デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）（R4～R6）を活用し、市民の誰もが生涯現役でいつまでも自分らしく幸せに輝き暮らすまちをつくるため、「藤枝型共生のまちづくり」を推進

◆いつまでも輝き活躍できる地域づくりを実現

「しごと・教育」 『活躍のまち』

【取組内容】

○地域大学（藤枝市民大学）の創設等によって推進するデジタルデバイト教育等の段階的な生涯教育により、介護領域や産業領域への人材供給と地域コミュニティの担い手を供給することでいつまでも輝き活躍できる地域を実現

アクティブシニア
活躍応援事業
イメージ



「共生・交流」 『コミュニティのまち』

【取組内容】

○多世代が交流する拠点づくり、地域の伝統産業を活用した多文化共生の推進、外国人の社会参画の推進、I C Tを活用した地域内外の交流促進を実施し、いつまでも輝き活躍できる地域を実現



外国人への
日本語講座
実施事業
イメージ

「移動・買物」 『暮らしのまち』

【取組内容】

○高齢者の生活に必要な通院や買い物、サロンなどへの参加のため、ボランティア団体や企業等の多様な形態に合わせた多彩な支援策を実施し、いつまでも輝き活躍できる地域を実現

多世代交流型出
かけC A Rサー
ビス支援事業
イメージ



全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：静岡県 南伊豆町

◆コンセプト：「学びあい、認めあいながら、地域全体でつくる健幸、活躍、共生のまちづくり」

地域の資源を含めた地域全体が、地域の中で活躍することのできる「学びあい、認めあいながら、地域全体でつくる健幸、活躍、共生のまちづくり」を目指し、町内全域で既存資源を活用しながら事業を推進。

＜特徴＞ 地域の人と資源の活用。古くから交流のある東京都杉並区と連携した都市と地方の連携による地方創生の実現



ふるさとワーキングホリデー
「ミナミイズワーホリ」



コミュニティスペース
リノベーション講座



お試し移住
「田舎暮らし体験住宅」



特別養護老人ホーム
「エクレシア南伊豆」

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 多様なライフスタイルが集う新たな地域コミュニティ創生モデル事業による移住者、関係人口と旧来コミュニティの関係づくりと持続可能なコミュニティ形成

【今後の展開】

- 移住者のみならず関係人口など多様なライフスタイルを積極的に受入れることで、地域コミュニティを持続可能なものとするため、モデル地区を設定し、重点的に事業を展開するとともに町内各地域への横展開を図る。

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 生涯現役地域づくり環境整備事業により、高齢者を中心とした就労環境整備に取組む
- ふるさとワーキングホリデー事業

【今後の展開】

- 高齢になっても希望に応じて就労し、地域社会の一員として充実した暮らしを続けていくことができるよう、また、地域課題の一つでもある担い手不足解消にもつながる取組として展開していく
- 仕事×関係人口の推進

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 運動習慣獲得のための講座年代、性別を限定し、筋肉量を向上させながら、脂肪減を図るための継続的な運動講座

【今後の展開】

- 早稲田大学スポーツ科学学術院との連携で取組んだ、住民の健康意識調査結果に基づく地域別の健康づくり事業展開により住民の健康（意識）向上の推進を図る
- 個々の健康づくりから地域内での活躍推進へ

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- お試し移住用「田舎暮らし体験住宅」、地域内の空き家を借上げ、移住希望者へのサブリース等による体験環境や住まい提供

【今後の展開】

- 多拠点居住者も見据えた居住施設提供のため、空き家活用を積極的に推進し、地域で活動する人員の増加を図ることで、地域の住みにくさ解消にもつなげる
(体験住宅2棟・中期お試し移住物件5棟)
- 関係人口拡大に向け、シェアハウス運営検討

コミュニティへの人の流れ

お試し移住事業の推進により、移住希望者が地域の実情を理解し、地域との良好な関係構築に支えられた計画的な移住に結び付く。移住検討段階で地域との関係構築を図ることも可能となり、地域コミュニティへの自然な参画が期待できる。
…特定地域でのモデル事業の実施

その他特徴的な取組

東京都杉並区との連携関係に基づき、様々な年代の区民（子供から高齢者まで）が南伊豆町と関われる交流事業を推進している。これにより、区民の南伊豆町認知度の上昇、住民間の個々の結び付きの強化、杉並区内における南伊豆町の関係人口拡大にもつながっている。

- ・人口：7,411人（R6.4月時点）
- 基礎データ
- ・H28.3 南伊豆町生涯活躍のまち基本計画を策定
 - ・H29.6 地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業関係）認定
 - ・地方創生先行型交付金（先駆的事业分）・地方創生加速化交付金・地方創生推進交付金（H29～R3）を活用
 - ・R3.3 子育て支援、就労支援機能併設施設整備（拠点整備交付金活用）
 - ・R4.3 テレワーク施設3施設整備（サテライトオフィス進出企業12社）

◆コンセプト：

幸せが実感できる共生のまち

これから訪れる様々な課題には、行政だけでは太刀打ちできず、市民一人ひとりが地域に役割と居場所を持ち、関わり合い、お互いに助け合い支え合える「地域で共生するまち」にしていくことが重要となります。そのため、人と人、人と地域、人と自然、様々なものがつながり、「共生」幸せが実感できるまちを目指します。

<特徴>

「市民主体のまちづくり」の実現に向け、

- ①市民が「知り合う」きっかけをつくる
 - ②概ね小学校区単位での「顔の見えるまちづくり」の推進
 - ③市民に役割を担ってもらう
- 以上3つの点を念頭においてまちづくりを進めます。



地域共生ステーション



リノモテラス

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【地域の担い手づくりの推進】

高齢者の生活の手助け等の活動に取り組み、地域の担い手として活躍できるための環境づくりに取り組みます。

【今後の展開】

介護予防の取組や簡単な支援を地域で提供できる体制づくりを行います。（生活支援サポーターの養成）

「活躍・しごと」

【地域における活動の場の整備と活用】

地域コミュニティを活性化させるため、地域の活動拠点となる地域共生ステーションを整備します。

【今後の展開】

概ね小学校区単位の地域に、自治会をはじめ、子ども会やシニアクラブ、企業、NPO、各種活動団体等が、地域のために様々な取組を行う拠点となる施設を整備します。

「健康」

【市民の健康づくり】

健康寿命の延伸を目的に、疾病の発生防や早期発見、重症化予防、心の健康づくりを推進するとともに、生涯を通じた健康づくりに取り組みます。

【今後の展開】

生活習慣の改善につながる運動、各種検診の受診、健康講座、イベント、スポーツ教室等の「健康づくりメニュー」を取り組んだ人にマイレージ（ポイント）を付与します。

「住まい」

【良好な住環境の形成】

歩いて外出する市民を増やすため、道路に緑を増やし、木陰等で休憩しながら楽しく歩くことができる環境づくりに取り組みます。

【今後の展開】

アダプト制度を活用し、街路樹の清掃、除草、水やり及び損傷等の情報提供について、市民の力を借り、適正な管理を行います。

コミュニティへの人の流れ

リノモテラスにぎわい創出事業

リノモ長久手古戦場駅北側のリノモテラスにおいて、市民の新たなつながりをつくるために、市民が主体となってにぎわいを創出する事業を行います。

その他特徴的な取組

市民主体の計画づくり

市民一人ひとりに役割と居場所があることで、生きがいづくり、幸せが実感できるまちづくりの取組の一つとして、みなさんと一緒に各種計画を作り上げていくことを進めています。

基礎データ

○人口：61,318人（R6.4月時点）

○第2期長久手市まち・ひと・しごと総合戦略策定（R1.3月）

（基本目標1 役割・しごとづくり「誰もが活躍できる役割・しごとをつくる」を明記）

○地方創生拠点整備交付金（H29.2月地域再生計画認定）を活用（多世代交流サロン整備による「役割」と「居場所」のあるまちづくり）

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：愛知県 美浜町

◆コンセプト： みはまトリプルAプラン

「だれでも いつでも どこでも 活躍できるまち」をスローガンに美浜町に住み、学び、働くすべての人々が、地域社会の中に居場所を見つけ、様々な人や活動とつながりながら、役割を担い、生き生きと生活することのできるまちを目指す。

<特徴>

経済活動、ボランティア活動や地縁活動などを含めて、だれでもいつでもどこでも活躍できる場と機会と役割を作り出す。



- 基礎データ**
- ・人口：20,737人（R6. 4月時点）
 - ・H29. 3 美浜町生涯活躍のまち基本構想・基本計画(みはまトリプルAプラン だれでもいつでもどこでも活躍できるまち)策定
 - ・H29. 5 生涯活躍のまち「みはまトリプルA」推進地域再生計画認定
 - ・H29～R 1 地方創生推進交付金を活用し、事業を実施した。

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 名鉄知多奥田駅構内及び美浜町総合公園内に交流拠点を整備



【今後の展開】

- 交流拠点にとどまらず、子ども食堂の開催やサロン活動など、子ども・大人の居場所づくりに取り組む
- スポーツを通じた生涯活躍のまちの実現に取り組む

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- ちゃぶだいハウスにおいて、人材育成のサポートや機会づくり（マッチング）を実施



【今後の展開】

- 既存団体と協力・連携し横断的なネットワーク化によるサポート体制を整備し、新たなコミュニティビジネスの創出を目指す

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 美浜町と日本福祉大学の連携事業として、「みはまスポーツクラブ」を設立し、町民の健康づくりに取り組む



【今後の展開】

- 豊かなスポーツプログラムや健康づくりの仕組みを開発・構築をできるよう2019年に一社化し、自立した組織として「みはま」ならではの取組の推進を図る

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- まちづくり中間支援団体「（一社）美浜まちラボ」において、「美浜空き家管理センター」を開設



【今後の展開】

- 管理する空き家をリノベーションし、移住や二拠点生活、サテライトオフィス誘致などに繋げる

コミュニティへの人の流れ

- 移住・定住の促進のため、フリーペーパー「みはまデイズ」を発行したほか、移住希望者を対象とした「暮らし体感ツアー」、「自然体験ツアー」を開催した。今後もシェイププロモーションプロジェクトに取り組み、全国へ「みはまファン」を増やす

その他特徴的な取組

- 現在進めている「美浜町運動公園」の整備を契機としたまちづくりを推進するため、日本福祉大学と連携し、「みはまスポーツまちづくり推進室」を開設した。今後は、スポーツを通じた生涯活躍のまちの実現に取り組む

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：京都府 八幡市

◆コンセプト：健康まちづくりを軸とした、

誰もが生涯にわたって活躍できるまちづくり

＜コンセプトの概要＞ 地方創生の柱の一つとして取り組んできた「スマートウェルネスシティプロジェクト」を主軸に、各施策を組み合わせることで、誰もが生涯にわたって活躍することができ、幸福感を味わえる「住みたい、住み続けたい」と思えるまちづくり。

＜特徴＞

健康寿命の延伸に向け、健康関連データに基づく健康づくりに加え、居場所や生きがいづくり、住みやすい環境づくりを合わせて実施することにより、「健康」で「幸せ」を感じられるまちの実現を目指す。

健康まちづくりを軸とした、誰もが生涯にわたって活躍できるまちづくり

「健康」

スマートウェルネスシティ(SWC)の実現に向けた、健康で幸せを感じられるまちづくり



健康寿命の延伸

高齢になっても…

「交流・居場所」

・地域コミュニティが活発であり、人との交流や自身の居場所がある
・みんなで支え合い、助け合う絆がある

「活躍・しごと」

・就労、活動、交流の場や社会参加できる環境があり、生きがいがある
・職住近接の環境が整っている

「住まい」

・誰もが住みやすい住環境がある

+

「生活都市」から「より多機能能力を有するまち」への転換を図るとともに、「子育てにやさしいまちづくり」の推進により、新たな人の流れや多世代交流を創出

＝

誰もが生涯にわたって活躍でき、幸福感を味わえる
「住みたい、住み続けたい」と思えるまちに

基礎データ

- ・人口：68,969人（R6.4月1日時点）
- ・H28.2：八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定
- ・H28.4～：地方創生加速化交付金、地方創生推進交付金を活用し、やわたスマートウェルネスシティプロジェクトを開始
- ・H29.3：やわたスマートウェルネスシティ構想策定
- ・H30.3：やわたスマートウェルネスシティ計画策定
- ・H31.4～：地方創生推進交付金を活用し、全国4市町との連携による、やわた未来いきいき健康プロジェクトを開始
- ・R2.6：第2期八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定
- ・R5.12：やわたスマートウェルネスシティ計画改定

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 様々なコミュニティ組織による地域づくりへの支援と組織間の連携促進
- 本市で暮らすあらゆる人々が、互いに助け合いながら自分らしく活躍できる「地域共生社会」実現にチャレンジ

【今後の展開】

- コミュニティ活動による地域づくりの推進に加え、近年急増している外国人住民など多様な人々が互いに支え合い安心して暮らせる地域共生社会の推進等により、人と人が支え合う暮らしの絆づくりにチャレンジ

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 高齢者の就労・活動の場の提供、地域行事等コミュニティ活動への参加促進
- 生涯学習を通じた社会参加・貢献の促進による担い手発掘
- 各種団体等との連携による雇用創出

【今後の展開】

- 社会における高齢者の活躍の場を創出し、生きがいづくりを推進
- まちづくりの担い手育成や、環境と調和したしごとの創出等により、活躍の場や職住近接の環境を生み出す

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- やわたSWC構想及び計画のもと、健康プロモーションの推進、健康寿命を延ばす習慣の定着・促進、健康づくり習慣の定着に向けた世代・嗜好にあった健康プログラムの創出等を実施。

【今後の展開】

- これまで取り組んできた「人に対する健康づくり」に加え、自然とまちを歩きたくくなるような「まちの健康づくり」に取り組むことで、八幡で暮らすことで健康になれるまちづくり（＝スマートウェルネスシティやわた）を目指す

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 市の人口の約3割が居住する男山地域のまちづくりについて、男山地域まちづくり連携協定及び男山地域再生基本計画に基づく各分野の取組を、様々な連携機関や地域住民とともに推進
- コミュニティバスの運行等により、出歩きたくなるまちづくりを推進

【今後の展開】

- 団地や戸建て住宅等、多様な住宅が存在する当該地域について、若者から高齢者まで誰もが住みやすいまちとなるよう、これまで培ってきた行政や地域団体など様々な組織や人のつながりを活かし、「みんなで創る」まちづくりを推進
- バス利用の促進を図りつつ、歩行空間の整備により、自然とまちを歩きたくなるまちづくりを推進

コミュニティへの人の流れ

- 誰もが安心して気軽に利用でき、子育て世代をはじめとする多世代の交流を誘引する場として、市の人口の約3割が居住する男山地域に位置する公園を再整備
- 地域全体で子育て世代を見守る「子育てにやさしいまちづくり」を推進し、新たな人の流れの創出に繋げる

その他特徴的な取組

- 従来の「生活都市」から脱却し、新しい時代の流れを取り入れつつ、仕事の場の創出や暮らしを楽しめる場の整備など、「より多機能能力を有した、生活に潤いをもたらすまち」への転換を図り、生涯にわたり活躍できる環境を整備することにより、本市に住みたい、住み続けたいと感じてもらえる人の増加に繋げる

◆コンセプト：人生100年貢献できる働ける改革の推進

南あわじ市においても、急激な人口減少と超高齢化社会が進んでおり、この状況を克服するにあたり、高齢者の方々がいつまでも健康で仕事や社会貢献活動を継続することにより、現役で活躍し続ける社会の実現を目指す。

<特徴>

当市では「高齢者等元気活躍推進事業」を実施し、60歳以上のシニアへの就労支援及び有償ボランティア制度の運営を行っている。これによりシニアは体力やライフスタイルに応じて、就労・有償ボランティアなど幅広く活躍の場を選ぶことができる。



小学校での給食の片付け



小学校での花壇の手入れ



協定の締結



成果報告会の開催

- 基礎データ**
- ・人口：44,162人（R6.3月末時点）
 - ・平成30年度から地方創生推進交付金を活用し事業を実施
 - ・平成31年度に生涯活躍推進室を設置
 - ・令和2年2月、シルバー人材センターと「高齢者の社会参加促進に関する協定」を締結
 - ・令和3年3月、成果報告会を開催し、地方創生推進交付金を活用した取組結果を発表

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- いきいき百歳体操
- ふれあい・いきいきサロン

【今後の展開】

- 住民主体の介護予防活動の新たな会場・参加者の増加に向けた支援や、高齢者の社会参加を拡大するなど地域と一体となったまちづくりを推進

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- おもいやりポイント制度
- 働くシニア応援プロジェクト
- 生涯現役カレッジ
- シニアの生涯活躍総合相談窓口

【今後の展開】

- 人手不足で悩む各種施設での有償ボランティア活動に加え、地域課題の解決など活躍の場の拡大を検討・実施
- 公募した市内モデル事業者と高齢者の雇用分野拡大を推進

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 町ぐるみ健診
- 食育チャレンジ事業

【今後の展開】

- 健康への意識を高め、自ら健康づくりに積極的に取り組み健康寿命を延伸

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 空き家バンク制度
- 定住促進空き家活用支援事業
- マイホーム取得事業

【今後の展開】

- 空き家バンク制度や利活用への支援により市内にある空き家の有効活用を促進
- マイホーム取得補助など転入促進施策の実施により本市への移住・定住を促進

コミュニティへの人の流れ

- 多世代同居・近居支援事業補助金
多世代で同居や近居をする方への支援により家族の絆の再生及び地域の共助を促進
- 移住支援補助金・奨励金
移住世帯への支援により定住・地域の活性化を促進
- 奨学金等返済支援事業・中小企業奨学金返済事業
若者の地元への就職及び定住を促進するため、奨学金を返済しながら働く若者を支援し、地域を支える人材の確保を図る。

その他特徴的な取組

- 地域づくりチャレンジ事業
持続可能な地域づくりを目指し、各地域が抱える課題の解決に向けて、住民主体で取り組む事業を市が応援

◆コンセプト：全員が主人公！みんないきいき！ インクルーシブ FSS35キャンパス

<目指す将来像>

奈良学園大学三郷キャンパスの移転に伴い、大学跡地を「FSS35キャンパス」とし、「**未来技術**」「**SDGs**」「**共生社会**」を3つの柱に、全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」実現に向けた核となるエリアとする。さらに、

- ・ICTの活用等**未だ技術**を用いたエリアの利便性向上等に取り組む。
- ・**SDGs**未来都市として、基本理念である「誰一人取り残さない社会」を基に、年齢、国籍、人種、障がいの有無に関係なく、全ての人がいきいきと遊び、学び、働き、生活し、活躍し、交流する**インクルーシブ観点から全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」**を創造する。
- ・「**地域共生社会**」の実現に向けた「重層的支援体制整備事業」を実施する。

奈良学園大学三郷キャンパス跡地利活用計画 (各施設で取り組む内容は右記参照。)



- 健康交流ゾーン**
(1号館、2号館、3号館及びテニスコート等)
健康増進を図る事業を通して高齢者や障がい者の居場所づくりや、健康相談の実施等、施設利用者及び住民の健康・交流に資するゾーン
- 教育研究ゾーン**
(5号館・6号館・7号館)
乳幼児から成人までを対象とする教育とそれに伴う研究を行うゾーン
(施設利用者や地域住民の交流につながる提案も可能とする)
- 産業振興ゾーン**
(10号館)
産業の振興として、サテライトオフィスを整備し、市内の雇用や起業の機運を高めるゾーン

事業者の提案内容一覧

提案施設	提案内容(概要)
1号館	・サービス付き高齢者住宅等
2号館	・カフェテリア ・交流・体験型ミュージアム
5号館	・障がい者、高齢者の就労支援施設 ・保育士・介護福祉士の専門学校等 ・海外国立大学のサテライトキャンパス
6号館	・日本語学校
7号館	・カフェ併設図書館 ・ボーダーレス・アートギャラリー

【整備スケジュール(概要)】

- ・令和4年3月31日に大学より譲渡
- ・令和4年度、整備工事
- ・工事完了後、順次開設、運営

基礎データ

- ・人口：22,432人（令和6年4月1日）
- ・面積：8.79km²
- ・第1期総合戦略により「CCRC」の推進を掲げる。
- ・平成29年度～厚生労働省委託事業「生涯現役促進事業」を実施。
- ・令和元年7月 SDGs未来都市に選定
- ・第2期総合戦略により「生涯活躍のまち」の推進を掲げる。
- ・令和3年度より、「重層的支援体制事業」の開始

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【当面の取組内容】（2024年頃）

- 様々な福祉事業所、専門学校、日本語学校、サテライトオフィス、スポーツパーク、食堂、ブックカフェ等を整備し、幅広い世代や障がい者や外国人も集まるエリアづくりを実施
- 学習支援等を通し、子どもの居場所づくりを実施

【将来的な取組内容】（2025年頃）

- カフェテリアや食堂を障がい者と高齢者が一緒に運営できる仕組みをはじめ、エリア利用者が交流できる機会の創出

「活躍・しごと」

【当面の取組内容】（2024年頃）

- 民間事業者による高齢者、障がい者の就労支援の実施
- サテライトオフィスの整備で、利用企業による雇用の創出、また子育て・介護による時間的制約がある方にテレワークの推進

【将来的な取組内容】（2025年頃）

- 地域内の雇用創出に伴う転出者の減少
- 障がい者、高齢者の一般就労の促進
- 仕事以外の役割の創出

「健康」

【当面の取組内容】（2024年頃）

- 高齢者・障がい者の各施設入所者の健康増進を図るとともに、訪問看護・通所介護により、地域高齢者の健康支援も行う。
- ナースিংホームにより、医療・介護の両方のケアが必要な方の支援を行う。
- スポーツパークやフィットネスジムを通して、住民の健康増進を図る。

【将来的な取組内容】（2025年頃）

- 心身両面における健康に加え、人との関わりによって満たされることも重要であり、人と人の関わり（交流）を増やすことに取り組む。
- 看護小規模多機能施設を誘致し、地域高齢者、医療的ケア児の支援も行う。

「住まい」

【当面の取組内容】（2024年頃）

- サービス付き高齢者向け住宅による高齢者の住まいを確保

【将来的な取組内容】（2025年頃）

- 高齢者、障がい者両方の機能を有する共生型グループホームの設立
- 専門学校等学生の住まい確保

コミュニティへの人の流れ

【当面の取組内容】（2024年頃）

- 施設利用者だけでなく、町内外の方にも利用いただき、関係人口の増加を図る。特に、サテライトオフィスやスポーツパークを積極的に周知する。
- エリア内利用者が交流できる環境を構築するため、イベント等の企画により、交流できるきっかけを本町で行い、将来的にはエリア利用者が自然に交流できる関係を築く。

その他特徴的な取組

【当面の取組内容】（2021年より）

- 2021年より、高齢・障がい等の属性、世代を問わず、複合的な課題を抱える世帯を支援する「重層的支援体制事業」の実施。
- 地域BWAやローカル5GをもとにICT・IoT技術の積極的な活用し、エリア利用者の利便性・利用満足度の向上を図る。
- 地球環境保護の重要性に鑑み、ボーダーレスコミュニティであるこのエリアを脱炭素先行地域とすることで、環境教育の実践を図る。

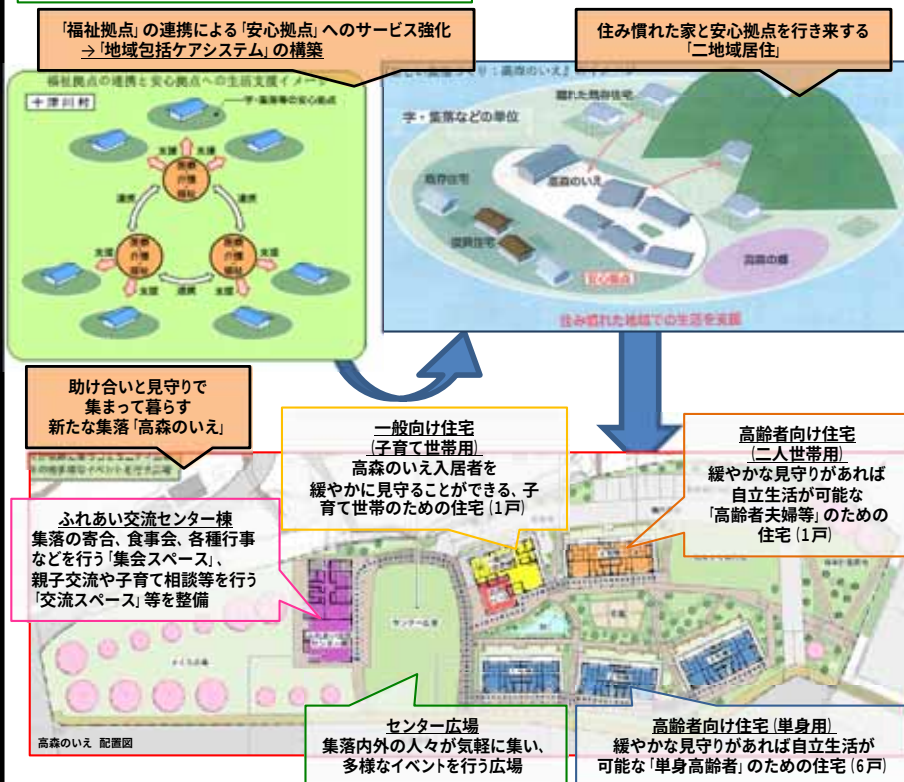
◆コンセプト：「誰もが最期まで村で暮らす」しくみづくり

平成23年の紀伊半島大水害時に建設された木造仮設住宅で暮らした村民の「みんなで一緒に楽しく暮らせた」という声をもとに、村民が「助け合い支えあいながら村で最期まで幸せに暮らすこと」を目標とした「安心拠点」を整備し、住まい・在宅医療・介護、生活支援サービスの強化・充実を目指す。

<特徴>

村の高齢者福祉のモデルプロジェクトとなることを目指し、関係各課と村づくりや福祉の専門家などで議論を重ねてきた。

新たな集落づくり（高森のいえ）



◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域の音楽クラブや子ども向けのイベントなどにセンター棟を利用
- 高森のいえと既存の大字の集落との交流について、意見交換会等を開催

【今後の展開】

- 地域住民だけでなく、大学生の研修やフリーマーケットなど、地域外の人も呼び込むイベントの開催
- 共用スペースを活用したお茶会などを発展させたカフェ等の利用

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 中庭に菜園を設け、自宅に居た頃と同じように農作業をすることで生きがいにつながる

【今後の展開】

- くくり柿などの軽作業による収入を得ることで、やりがいにつながる
- 平常時からお互いの生活に目を配り、声掛けをする、助け合うという役割を再認識し、やりがいとする

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 特別養護老人ホーム高森の郷と連携し、デイサービス等の支援
- 介護予防教室などの開催

【今後の展開】

- 通路スペース（屋根付き）を活用した散歩等によるリハビリ
- 介護予防教室をセンター棟で定期的開催
- 月1回の出張診療（センター棟和室を利用）

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 村内に住所を持つ高齢者を優先入居
- 元の家について、処分を検討している場合は空き家・空き地バンク等を紹介

【今後の展開】

- 現在は高齢者の入居としているが、村の人口構成の変動によっては、子育て世帯や若者でも利用ができるような転用を考えている（屋根裏収納を設けるなど、将来性を見据えた設計としている）

コミュニティへの人の流れ

- 公園や遊び場が少ない村内において、地域の子どもの遊び場になることで、高森のいえ入居者との交流が生まれる
- 医療・福祉のサポートがあるため、安心して村内に住み続けることができ、人口と介護保険費用の村外への流出を食い止めることができる
→村外に住む家族の安心にも繋がる

その他特徴的な取組

- 介護保険費用を活用した施設ではなく、村営の住宅とすることで、介護保険だけに頼らない住民同士の助け合いで暮らしを維持するシステム
- 自宅と高森のいえを行ったり来たりできる、二地域居住を推進

基礎データ

- ・人口：2,804人（R6.4月時点）
- ・H26.4 高森のいえプロジェクト推進委員会設立
- ・H26.12～ 高森のいえ基本計画事業者選定・基本計画作成
- ・H27.4～H28.3 高森のいえ 基本設計・実施設計
- ・H28.7～H29.3 高森のいえ 建設工事
- ・H29.4～ 高森のいえ 入居開始

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：鳥取県 湯梨浜町

◆コンセプト：「町全体で取り組む生涯活躍のまち」

町内3地域を各地域の特色を生かした拠点と位置づけ、各地域が連携して、町全体を生涯活躍のまちの範囲として取り組んでいる。

<特徴>

町内の多くの事業者が関わっている「湯梨浜まちづくり株式会社」の設立、民間主導によるレークサイド・ヴィレッジゆりはまの開発など官民連携で生涯活躍のまちを推進している。

生涯活躍のまちのイメージ（平成28年度の基本計画をもとに更新）

・多世代が、充実した生活と安心して暮らせる町をつくる。

・地域が抱える課題の解決へとつながる人材の誘致

・現在住んでいる町民も利益共有できる環境づくり



◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 多世代交流センターゆるりん館、総合相談センターどれみの設置
- ゆるりん館でのみんなの食堂開催、どれみでの各種相談日開催

【今後の展開】

- ゆるりん館、どれみでの交流機会の増加
- 関係人口「ゆりはまフェロー」を核とした交流の創出
- ワーケーション推進による関係人口構築

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 「ゆうゆう、ゆりはま」による町内で活躍する人の町内外へのPR
- どれみでの県立ハローワーク仕事相談日の開催

【今後の展開】

- プロフェッショナル人材マッチング

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- ゆりはま食と健康のまちづくり事業（ゆりはまヘルシーくらぶ）
- SIBを活用した飛び地型自治体連携事業

【今後の展開】

- ゆりはまヘルシークラブ加入促進による町民の健康増進及び医療費の削減
- みんなの元気館のトレーニングルームを中心としたスポーツ人口の拡大

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- レークサイド・ヴィレッジゆりはま（一般分譲）
- 地域おこし協力隊による空き家利活用促進

【今後の展開】

- レークサイド・ヴィレッジゆりはまにおける町営住宅整備
- 空き家一括借上による空き家利活用促進

コミュニティへの人の流れ

- 生涯活躍ポータル「カラフル」への出展、相談窓口設置
- ゆりはま暮らし体験ボランティア制度
- 移住コーディネーターの設置

その他特徴的な取組

- 町発祥スポーツ「グラウンド・ゴルフ」の国際化推進
- 東郷湖周の温泉や景観を生かしたウォーキングリゾートの確立

基礎データ

- ・人口：16,213人（R6.4月時点）
- ・平成28年12月湯梨浜まちづくり株式会社設立
- ・平成29年3月生涯活躍のまち基本計画策定
- ・地方創生推進交付金、地方創生拠点整備交付金、デジタル田園都市国家構想交付金活用

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：鳥取県 南部町

◆コンセプト：「あなたのいきかたをデザインできるまち」

南部町に暮らす方、あるいは関わる方々に、経験や人脈を活かせるフィールドを提供するとともに、**誰もが居場所と役割をもつコミュニティづくり**により、町民が生涯にわたって活躍し、誇りをもって住み続けたいと思えるまちづくりを進める。これらの情報を積極的に発信することで、町内への**人の流れを促進**し、地域課題を解決するための人材誘致や関係人口の拡大につなげる。

- ＜特徴＞
- 「人」を起点にしたまちづくり
 - 地域資源を活かしたまちづくり
 - 多彩な主体のコミュニティによるまちづくり

【事業対象の全体像】



- ・人口：10,201人（R6.4月末時点）
- ・R2.3 なんぶ創生総合戦略改訂
- ・R3.4 地域再生計画認定（「全世代・全員活躍のまち推進プロジェクト」）
- ・R3.3 第2期南部町生涯活躍のまち基本計画策定
- ・地方創生推進交付金（R4.第1回）
- ・地域再生推進法人：「NPO法人なんぶ里山デザイン機構（まちづくり会社）」（H29.9）「公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)」（H29.10）「NPO法人南部町総合型地域スポーツクラブ（スポnetなんぶ）」（R2.11）

基礎データ

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域交流拠点5か所（「えん処米や」、「えんがーの富有」、「てま里」、「かまくら山荘」、「いくらの郷」）、法勝寺拠点エリアハブ拠点施設「キナルなんぶ」を中心とした居場所づくりを実施中。

【今後の展開】

- 法勝寺拠点施設キナルなんぶを活躍の場とするため地域団体等との協働による50万人プロジェクトを実施中
- 地域と地域再生推進法人の協働による“ごちゃまぜ”コミュニティの取組みを促進

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- まちづくり会社において「しごとコンビニ」事業（R4.4～）実施中。
- ローカル電子マネー（たすカード）の導入（R5.11～）

【今後の展開】

- 子ども対象のしごとにつながる講座の開催を継続し、グローバル人材等の育成を図る
- 活躍ポイントの充実、キャッシュレス化の促進

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 各地域振興協議会（7ヶ所）にまちの保健室を設置
- 「いきいき100歳体操」「健康ウォーキング大会」等、独自の健康づくり施策を実施中

【今後の展開】

- 減塩メニューや健康食品等の他団体との協働。ヘルシーメニューコンテストなどの実施

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- まちづくり会社において空き家のサブリース事業を運営中。36世帯入居中（R6.3）

【今後の展開】

- 都市部の学生による改修後の空き家を利用したワークショップ開催予定

コミュニティへの人の流れ

【主な取組内容・進捗状況】

- 都市部の企業や大学と連携し、地域課題解決のアイデアを募るとともに、関係人口の増加に繋げる
- JICA人材等との連携による多文化交流の促進

【今後の展開】

- 「人」の魅力による情報発信

その他特徴的な取組

- 地域活性化起業人にかかる協定。地域再生推進法人（まちづくり会社）への人材派遣実施（R5.4～）

- 都市部企業との協働により、脱炭素、ネイチャーポジティブを軸とした地域課題解決への取組み

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：広島県 三原市

◆コンセプト：健康・生活・仕事・つながりの充実による “欲張りなセカンドライフ”の実現

市内に居住するシニア層向けに、生きがいや収入を得ることや自分も周りも幸せにするような「欲張りなセカンドライフ」の実現につながる基盤を構築するとともに、これらを通じた健康寿命の延伸やシニア層が地域で活躍する環境づくりを行い、人口減少・高齢化に対応する社会をめざす。

<特徴>

「①健康」を基盤に、「②生活」と「③仕事」の充実、これらをつなげる「④つながり」の4つを本事業の基本方針として策定し、これらにつながる各種取組を実施。

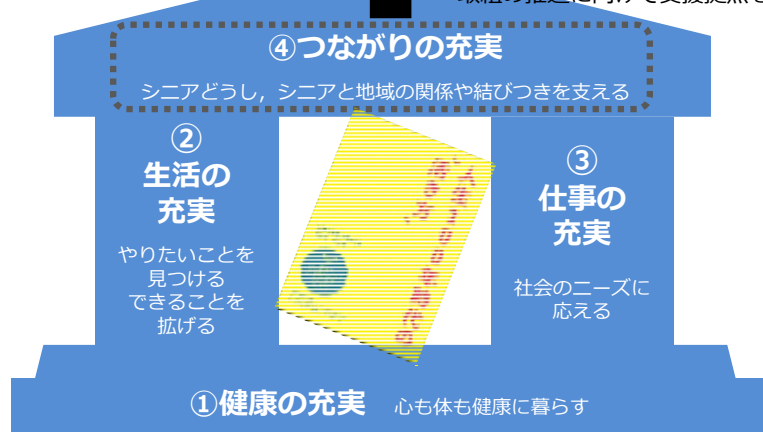
【生涯活躍のサポートステーション（Connect）】 コネクト

・上記の実現に向け、シニアの相談に応じたり、交流を促進したりするため、市民の幅広い相談に応じる拠点「Connect」をNPO法人が整備・運営。

- ①情報×交流スペースの提供
 - ・・・相談窓口、交流スペース 設置等
- ②シェアスペースの貸出
 - ・・・コワーキングスペース等
- ③生涯活躍の取組に関する情報発信
 - ・・・小冊子の編集・発行



取組の推進に向けて支援拠点を整備



基礎データ

- ・人口：87,438人（R6年3月31日時点）
- ・H27.10 三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定
- ・R2.3 第2期三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定
- ・地方創生加速化交付金、地方創生推進交付金(H29 第1回)活用
- ・Connect(事業を通じて設立)運営主体：NPO法人ミライディア

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- Connectにおいて次の取組を実施
 - 情報×交流スペースの提供
 - コワーキングスペースの貸出

【今後の展開】

- NPO法人ミライディアが市民の生涯活躍を支援する拠点施設の運営を担うとともに、市民の交流につながる取組の支援を行っていく(自走化)

左図「④つながり」関連

- シニア編集室の取組
生涯活躍を実践する市民を、シニア編集室(市民有志6名で組織)が取材・作成した小冊子で紹介。



「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 大人の就活マッチングサービス(お試し就労)

【今後の展開】

- これまでの取組をNPO法人ミライディアに引き継ぐとともに、スキルアップセミナーの開催など、取組の充実を図る

左図「③しごと」関連

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 生きがい感や生活満足度などを高める取組として、活動日記を用いた講座を開催。日記のプログラム策定、講師となれるサポーター育成や地域での講座展開を実施
- 市内に立地する県立広島大学との連携による、健康づくりやさまざまな活動の幅広い入口となる啓発講座の開催

【今後の展開】

- 市民団体を中心となり、活動日記の取組を実践し、地域へ活動を広げていく
- ★平成30年度に実施した研究について学術誌「作業療法」で最優秀論文賞を受賞
- 今後も県立広島大学と連携し、シニア世代のニーズに合わせた、知的好奇心も充足できるような講座の開催を検討

左図「①健康」「②生活」関連



コミュニティへの人の流れ

- それぞれの取組を普及させ、三原市が健康で欲張りなセカンドライフを送れるまちであることを市内外にアピールすることで、シニア世代の移住・定住へつなげる

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：広島県 安芸太田町

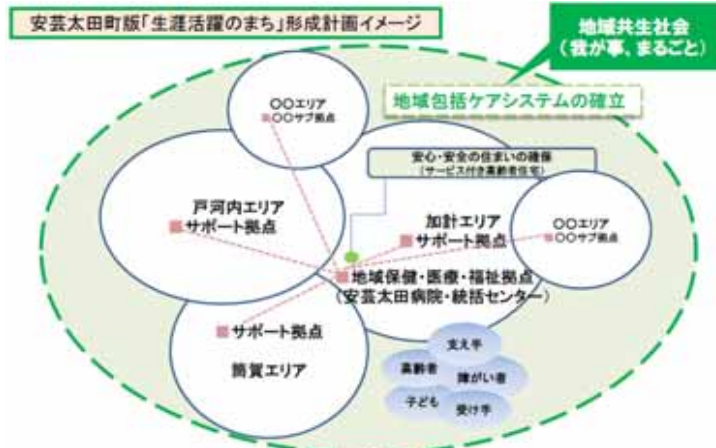
◆コンセプト：生活満足度の向上

転出抑制⇒コミュニティの維持

「出番」を創出することにより、「活躍の場」を求める田舎志向の高齢者や、社会貢献意識の高いアクティブシニア等の移住を促進するとともに、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる「居場所」を創出することにより転出を抑制する。これらにより生活の基盤ともいえるコミュニティを保全する。

<特徴> ○「出番」と「居場所」の創造

○住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域づくり



○各エリアでは、地域の資源を活かし、生活機能の集積
○各拠点では、子ども、高齢者、障がい者等の居場所づくり・出番づくり



加計エリアサポート拠点（月ヶ瀬温泉・運用中）



戸河内エリア生活サポート拠点（運用中）

- 基礎データ**
- ・人口：5,634人（R5.3月末時点）
 - ・H27.10地方版総合戦略を策定、
 - ・H28.3 安芸太田町版生涯活躍のまち構想を策定
 - ・H29.3 地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業関係）認定
 - ・地方創生拠点整備交付金（H28.第2回）を活用し戸河内拠点を整備
 - ・地方創生推進交付金（H29.第1回）を活用し、加計拠点の整備着手
 - ・地域再生推進法人の指定状況（H29.8 指定の事務取扱要綱制定
 - ・H30.1（公社）青年海外協力協会を地域再生推進法人に指定

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 戸河内エリアサポート拠点整備
- 加計エリアサポート拠点整備
- 筒賀エリアサポート拠点整備

【今後の展開】

- 戸河内拠点での交流活動の拡充
- 加計拠点整備（R2.8月運用開始・交流事業の拡充）
- 筒賀拠点整備（整備構想策定済）

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 拠点における生涯学習機会の提供
- 森林セラピーガイド・観光ガイド等の実践に繋がる学習機会提供
- 特定地域づくり協同組合の運営開始（R5.6月開始）

【今後の展開】

- 各拠点での生涯学習活動、交流活動を拡充を図る
- 森林セラピーガイド・観光ガイド養成講座との連携を図る
- マルチワークの推進により移住者向けのしごとづくりを促進する

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 拠点における保健・介護・福祉の相談・サービス提供
- ICTを活用した健康サポートシステムの構築

【今後の展開】

- 健康をテーマとして体操教室、料理教室等を拡充
- ICTを活用した健康サポート事業を実施。継続した健康に対する意識向上を図る

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 安心感を得られる住まい確保
- 住み替えができる環境づくり（居住の選択肢の確保）
- 空き家リノベーション住宅改修事業による住環境整備

【今後の展開】

- 空き家バンク制度の拡充、空き家の掘り起し
- 空き家活用モデルハウス「はじまりの家」整備完了、運用中
- 移住者向け住宅確保のための空き家の活用

コミュニティへの人の流れ

【主な取組内容】

- 安芸太田暮らし移住アドバイザー設置
- お試し住宅の運営
- 定住フェア、ふるさと会でのPR
- ふるさと納税制度と連携した関係人口の拡大
- 地域通貨DXによる地域経済活性化

その他特徴的な取組

【主な取組内容】

- 小・中・高校生等のボランティア活動、国際交流活動支援（次世代のコミュニティの担い手育成）
- R4・4月から地元の高校生と地域住民との交流拠点として、人材育成・交流センターを整備
- 新デマンド交通の運行による移動促進

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：香川県 高松市

◆コンセプト：「いくつになっても元気で活躍

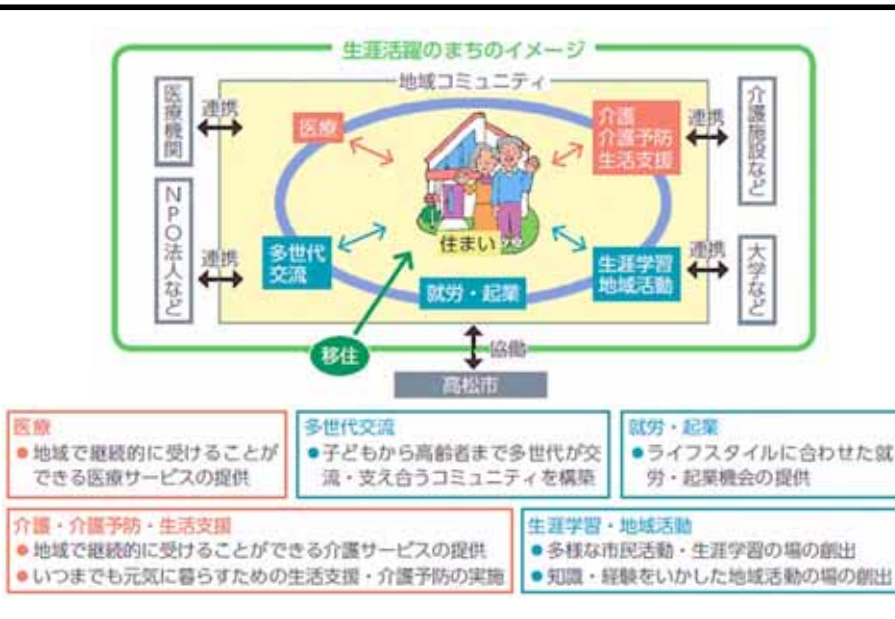
たくさんの夢 かなうまち 人と人がつながる地域 高松」

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい人生を最後まで続けられるよう、「医療」、「介護」、「介護予防」、「住まい」が切れ目なく一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に取り組む中、介護や育児など、複合的な問題を抱えた世帯を包括的に支援する地域共生社会の実現を目指す。

また、移住・定住の促進や地域コミュニティの自立・活性化に取り組み、各地域において多世代交流や地域活動などを通じて、地域の個性をいかした住みやすいまちづくりを進める。

<特徴>

全市域で構築されている地域コミュニティ協議会を軸として、移住者を含むアクティブシニアが、地域に溶け込み、多世代の地域住民との交流を通し、自らの経験やスキルをいかして、生涯健康で生きがいを持って活躍できるまちづくりの全市的な展開を目指している。



◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

移住・定住の促進

【主な取組内容・進捗状況】

- 本市への移住に興味のある方を対象としたイベントや移住者交流会の開催

【今後の展開】

- 本市の魅力発信や、本市と多様な関わりを持つ人（関係人口）との継続的なつながりを拡大

多様な活躍ができる地域づくり

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域活動や生涯学習などの社会活動への参加の機会の提供

【今後の展開】

- 地域の担い手として、アクティブシニアが生きがいを持ちながら活躍できる地域づくりの推進

多世代が交流するコミュニティづくり

【主な取組内容・進捗状況】

- 夏祭りや文化祭など、子どもや子育て世代、高齢者などの多世代が参加・交流ができる地域活動の実施

【今後の展開】

- 地域活動への参加を通じて、多世代の地域住民が持続的につながるコミュニティの形成

地域共生社会の実現

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域包括ケアシステムと連携し、住み慣れた地域で、健康でいきいきとした生活を実現できる仕組みの構築

【今後の展開】

- 高齢者をはじめ、子どもや障がい者など、全ての人々が、地域・暮らし・生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現

アクティブシニアの活躍を支える環境づくり

【主な取組内容・進捗状況】

- 田園に囲まれた暮らし、まちなか暮らしなどの多種多様な暮らし方を選択できるまちづくりの推進

【今後の展開】

- 都市機能のさらなる発展と、豊かな自然を維持し、アクティブシニアが希望に沿った暮らし方や住み方が送れる環境づくりの推進

基礎データ

・人口：411,006人（R6.4月時点）

・H31.3「高松版生涯活躍のまち構想」を策定。

・H31.8～R3.3 仏生山、男木、牟礼、十河の4つのモデル地区でワークショップを開催し、高松版生涯活躍のまち構想を踏まえ、各地域の特性をいかしたまちづくりを検討。

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：香川県 宇多津町

R6.4月時点

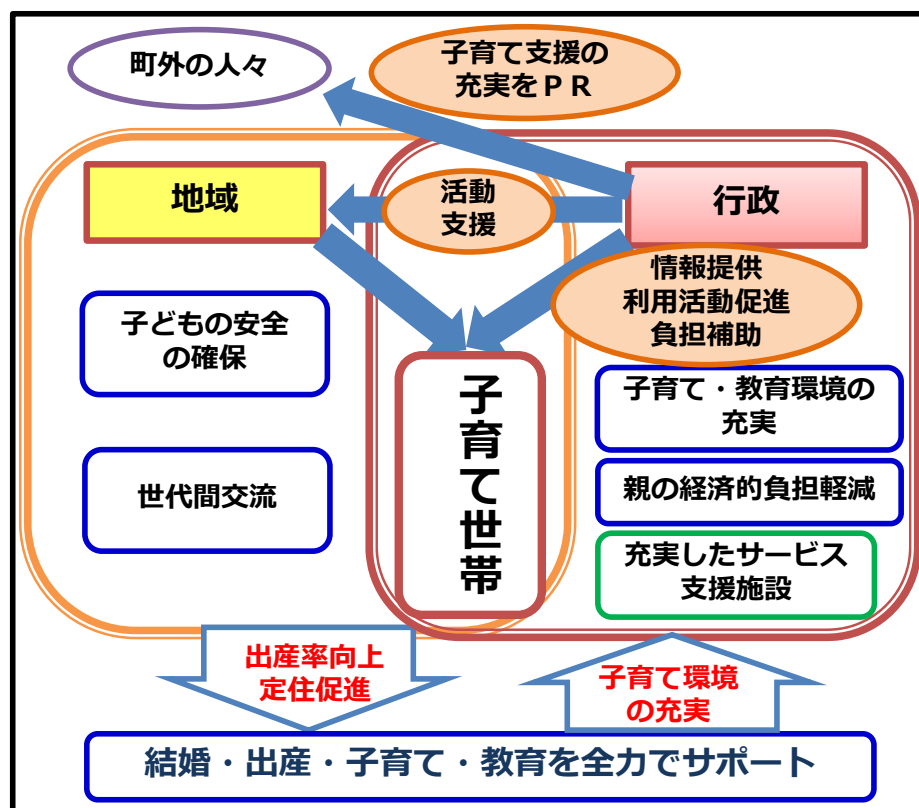
◆コンセプト：

「雇用・地域所得向上に資する世代間交流促進」

子育て世帯への支援を中心とした世代間交流事業と地域における子育て環境構築による出生数の増加と、高齢者・障がい者や女性の生涯活躍の場の創出とともに雇用創出及び特産品等の販売による地域経済活性化を目指します。

<特徴>

高齢者から障がい者、子育て世帯など幅広い世代の住民が集える世代間の交流等に取り組んでいる



◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 世代間交流施設「あみのうら交流センター」を拠点に多世代の、居場所、交流活動を実施

【今後の展開】

- 世代間の交流の場となることで子育て家族の負担軽減、高齢者の生きがいやボランティア活動の活性化

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 障がい者等製作物、町の特産品の販売・カフェコーナー
- 高齢者、障がい者といった方々の就労の場

【今後の展開】

- 高齢者、障がい者を対象に就労相談を実施し就労機会を創出

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 高齢者等の健康体操等の活動スペース
- 健康器具の無料開放

【今後の展開】

- 高齢者等の健康づくりの充実・強化

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 移住促進空き家改修等の支援事業
- 新婚生活の支援事業

【今後の展開】

- 空き家に関する相談窓口を多様な専門家と連携し、相談体制の充実を図るなど空き家の問題解決に向けて取り組みます

コミュニティへの人の流れ

- 子育て世代、高齢者や障がい者などが同一拠点にて活動・交流することにより「新市街地」と「旧市街地」における人の相互交流の流れを創出

その他特徴的な取組

- 多文化共生社会への町民の理解を深め外国人住民が安心して暮らせるまちづくりを目指して日本語学習環境の整備を行っている

基礎データ

- ・人口：18,342人（R6.4月時点）
- ・宇多津町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定（H27、R3改訂）
- ・地方創生拠点整備交付金（H29）

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：愛媛県 宇和島市

◆コンセプト：地域との連携による「共助のまちづくり」

少子高齢化及び核家族化により地域のつながりが希薄化する中、子どもや高齢者や障がい者など、様々な主体が交流できる場の拡大により地域の連携力を高め、普段の暮らしにおける支え合いや、災害時における自主防災機能など「共助」の機能強化を図ります。また、地域やその文化を支えるため、活躍の場を求める世代を問わない移住者のマッチングを促進します。

<特徴>

旧幼稚園や小学校をリノベーションした交流拠点を核として、拠点に集まる住民や既存施設の連携を強化することで新たな施設整備を行わない「生涯活躍のまち」

交流拠点を核とした地域共生のまちづくり

うわじまガイヤ健康体操
(各集会所)

身近な場所での健康づくり
男女問わない通いの場所の提供

旧九島小学校

「ユニバーサルレストラン」
・多世代が集える場所
(子どもと高齢者の交流機能)
・障害者、高齢者の就労場所
(配食サービス・調理)
・地域の支え合い活動の拠点
(人材育成)



旧九島診療所

「暮らしの保健室」
・地域の健康づくり
(集いの場の提供)
・地域の困りごと相談
(住民情報の把握)
・地域の支え合い
活動の拠点
(人材育成)



交流拠点に集う住民による
生活支援ボランティア団体を育成。

作った野菜は
ユニバーサル
レストランに販売

多様な主体が大きな拠点、小
さな通いの場に集まって交流
し、お互いが支えあえる「地
域共生」まちづくりを実践

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

○人口減少により増えつつある廃園・廃校・空き家を再利用した、住民による運営する交流拠点への再整備

【今後の展開】

○住民運営型の多世代交流事業（交流食堂等）による社会的孤立者の居場所づくり



「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

○交流拠点に集まる住民による地域支援（災害時の住民による被災者支援・見守り配食事業等）

【今後の展開】

○住民運営型の多世代交流事業・研修会を通じた地域の人材育成



「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

○ご当地体操「うわじまガイヤ健康体操」を拠点を核として拡大。元気高齢者を育成。

【今後の展開】

○体操を実践しながら健康状態を随時チェックし、健康長寿に係るエビデンスを確立。



「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

○住まい支援を充実させるため、福祉関係機関に加え、不動産業界とともに研修会・意見交換を実施

【今後の展開】

○研修会等の開催により、福祉関係機関と不動産業界との顔と顔が見える関係を構築

コミュニティへの人の流れ

○民間企業に加え、JICA海外協力隊の受入れにより、地域課題の解決に向けた人的・物的資源の獲得を目指し、関係人口の増加を図る。

その他特徴的な取組

○南予圏域の温かい人間性を生かした「おせっかいのまち」づくりと、住民の健康状態の改善により、移住者も地元住民も、支えられる側と支える側が入れ替わるまちを目指す。

- 基礎データ**
- ・人口：67,898人（R6.3月末時点）
 - ・H28.12 地域再生計画（生涯活躍のまち関係）の認定
 - ・H29.03 生涯活躍のまち うわじま基本構想を策定
 - ・H30.10 地域創生推進交付金を活用した「生涯活躍のまち・うわじま整備事業補助金」を創設
 - ・R5年度までに実施主体が地域交流拠点（3カ所）を整備

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：愛媛県 新居浜市

◆コンセプト：「まち・ひと・しごとを再創造（リ・クエイト）するまちづくり「RCC新居浜」」

＜コンセプトの概要＞ 人生100年時代を“わくわく”しながら暮らすために、生計や住まいなど「暮らしの基盤」を土台として、「健康を保つ」「やりたいことにチャレンジする」「好奇心・向上心を満たす」「人との関わりを持つ」の4つの要素を満たしていく。

＜特徴＞ RCC（リ・クエイト・コミュニティ）新居浜アクションプランにおいて、4つのアクションを定め、生涯活躍のまち拠点施設を整備。各種事業を効果的に展開・推進することで、住民一人一人の活躍の場を創出し生涯活躍のまちづくりを具現化する。

【RCC新居浜アクションプラン】

アクション1 ●基本構想のモデルプラン

集住型移住支援プラン

アクション2 ●移住検討者の選択肢の拡大

空き家等活用型移住支援プラン

アクション3 ●市民や地域に還元

生涯活躍のまち拠点整備プラン (若宮小学校の活用)

ソフト提供

拠点でのサービス展開

アクション4

人生100年 わくわく支援 プラン

学びの支援
チャレンジの支援
仲間づくりの支援
健康づくりの支援
子育ての支援

ワクリエ新居浜

歴史を活かし
記憶をつなぐ

感性を育む

新たな出会いと
発見を生み出す学びを深め
創造する

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 本市課題解決に向けた高校生等からの提案事業実施による若者の活躍の場の創出
- 飲食施設を活用した交流事業や新たな名産品・グルメの創出

【今後の展開】

- 「やりたいことがある」市民団体が主体となった多様な活動や事業の支援
- 多様なイベントの開催と新居浜市の魅力・情報の発信



「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 新規分野の産業振興と関係人口の創出に伴う活躍の場の提供
- ドローン事業やローカル5Gを活用したIT分野の産業創出
- 政策間連携による行政支援

【今後の展開】

- 企業・個人・地域の交流と新たなインキュベーションの推進
- コワーキングルーム等新しい就業環境の構築と利用の拡大



「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 木育の推進により乳幼児の感性を育み多世代交流を図る
- インスタグラムを活用した魅力発信事業

【今後の展開】

- 木育イベントの継続的な開催と木育インストラクターの養成
- 健康講座やストレッチ講座など多世代交流と健康寿命の増進



「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 旧国家公務員住宅を活用した移住支援住宅の整備、運用
- レンタルオフィス入居者や二拠点居住者などの住宅として活用
- 空き家バンクの開設による移住希望者支援

【今後の展開】

- 拠点施設における市外からのレンタルオフィス入居者やコワーカー等の転入者に移住支援住宅の活用を促進し相乗効果を図る



コミュニティへの人の流れ

- 廃校を活用した「生涯活躍のまち拠点施設（ワクリエ新居浜）」の整備が完了し、多様な人材が活躍できる新しい拠点が出来た。情報通信業を中心とした新しい産業の創出や市民が主役となる活動を支援することで関係人口を拡大し、新たな人口流入に繋げる

その他特徴的な取組

- 拠点施設においては、コワーキングオフィス、インキュベートオフィスを整備するほか、リカレント講座の開催、木育推進、地域活動支援、市民向け各種講座やイベントを実施し、各世代・職種の利用者相互が交流し学び、個人の目標や望みを叶えることを目指す

- 基礎データ
- ・人口：113,466人（R6.4月時点）
 - ・H30.3：RCC新居浜アクションプラン策定
 - ・R1.6：若宮小学校活用基本計画策定
 - ・R2.3：地方創生拠点整備交付金採択
 - ・R3.6：新居浜市生涯活躍のまち拠点施設「ワクリエ新居浜」供用開始

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：高知県 高知市

◆コンセプト：「生涯現役！こうちらいふで『人生二毛作』」

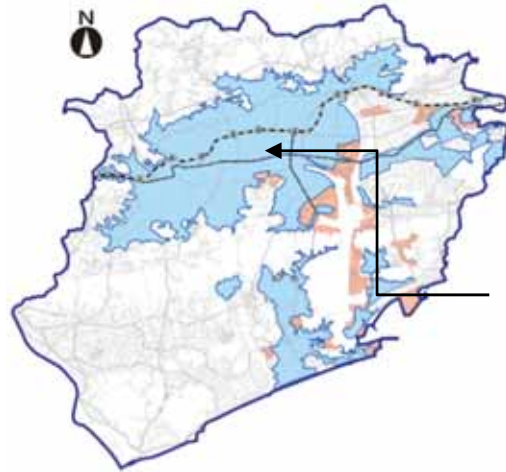
穏やかな気候や美味しい食、暮らしやすいコンパクトシティ、人懐っこい県民性など、本市の魅力や特色を活かした移住施策の一つとして、健康でアクティブな概ね50歳以上の方をメインターゲットに、これまで積み上げてきた知識やスキル等を活かし、生きがいと安心をもって暮らすことができるまちづくりをめざす。

<特徴>

- ① 官民が連携し、それぞれの強みを活かした事業を展開する。
- ② 本市の居住誘導区域に地域交流拠点を整備し、地域住民と移住者の交流を促進する。
- ③ 「食」と「運動」による低栄養予防（フレイル予防）をテーマに、移住・栄養相談に対応する。

<生涯活躍のまちの地域交流拠点>

○市街地に設置する地域交流拠点において、地域住民・移住者からの相談対応や交流事業を開催。



帯屋町健康サポートセンター



- 基礎データ**
- ・人口：314,997人（R6.4月時点）
 - ・H30.9 高知市版「生涯活躍のまち」構想・基本計画を策定。
 - ・H31.3 地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業関係）の認定。
 - ・H31.4 公募により事業主体を選定し、地方創生推進交付金を活用した「高知市生涯活躍のまち推進事業費補助金」により事業主体の活動を支援（R3年度で終了）。
 - ・R4年度で上記計画期間が終了。事業主体には、移住に関する情報提供等を継続。

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域交流拠点を市内に整備し、移住者や地域住民が気軽に集える居場所を創出。

【今後の展開】

- 地域交流拠点に配置されたコンシェルジュが、定期的なイベントを開催。また、県外での各種イベントや市民向けの啓発活動も展開。

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 産業・観光・福祉・コミュニティ・趣味など、あらゆる活躍の場を、パンフレット・高知求人ネット等を活用し発信する。

【今後の展開】

- 民間企業や関係団体等と連携し、アクティブシニアのスキルを活かした活躍の場を提供。



「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 介護予防を目的に、本市が開発した高齢者を元気にする「百歳体操」が、現在市内350カ所以上で開催されている。

【今後の展開】

- 介護予防やフレイル予防を実施する地域交流拠点及び全世代交流拠点となるフィットネススクールで栄養相談・移住相談業務を実施。



「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 本市への移住を希望されている方が気軽に利用できる「お試し滞在施設」を運用している（家具・家電付き）。

【今後の展開】

- 民間事業者のネットワークを活用した空き家の掘り起こしや、移住者のニーズに沿った住まいの提案を行う。



コミュニティへの人の流れ

「よさこい」を通じたコミュニティ

- 本市発祥の「よさこい」は、全国のお祭りやイベントでも取り入れられ、全国各地でよさこいに触れる機会が多くなっている。よさこいを通じて本市との繋がりを生み出し、関係人口やよさこい移住を推進する。



その他特徴的な取組

県内での「二段階移住」をサポート

- 移住へのミスマッチを防ぐために、まずは比較的都市部の高知市へ移住・滞在（一段階目）し、そこを拠点に県内を巡り、自分にあった場所を見つけて安心して最終的な移住（二段階目）をしてもらうもの。



全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の取組事例（土佐町（とさちょう））

◆コンセプト：

誰一人取り残されない全員参加のSDGsまちづくりプロジェクト

<特徴>

全世代・全員活躍のまちづくりを、町が推進するSDGs「誰ひとり取り残されない」取り組みに位置付け、持続可能な土佐町の実現に向けて強力に推進する。

土佐町では、「住民幸福度とSDGsに基づく“誰ひとり取り残されない”持続可能なまちづくり」を推進しており、2020年度には高知県で初めて「SDGs未来都市」に選定をされた。SDGsの考え方を取り入れた「第7次土佐町振興計画（総合計画）」に基づき、持続可能な水源のまちづくりをの実現を目指している。

土佐町が今後も持続可能であるためには、人口減少下であっても、全ての町民等が生き活きと活躍できる町であることが必要であり、年齢や障害の有無、性別に関わらず、全世代・全員が活躍できるまちとしていかなければならない。

このため、地域再生計画「誰ひとり取り残さない全員参加のSDGsまちづくりプロジェクト」では、地域への人の流れをつくる取組（移住・関係人口）と、誰もが居場所と役割がある地域づくりを一体的に推進することとしている。



- 基礎データ**
- ・人口：3,750人（2021年国政調査）
 - ・面積：212.13km²
 - ・四国の水瓶と呼ばれる西日本最大級の「早明浦ダム」がある水源のまち。
 - ・基幹産業は第1次産業：棚田での水稻、土佐あか牛の産地、林業（森林率86%）



◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- ・集落活動センター（小さな拠点）やあったかふれあいセンター事業を通じた多世代の集いの実施

【今後の展開】

- ・高等学校魅力化事業等とも連携。探究学習の機会を通じた地域住民との交流や、学生と地域住民が共に学ぶ機会の創出（「とまり木の分校」事業）

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- ・集活センター等において、旧小学校区単位で、地域での生業や仕事づくりを推進

【今後の展開】

- ・交流事業や関係人口創出事業を通じ、集落活動センター等と都市圏企業が連携した事業創出、新商品開発等の実施。関係人口から活動人口形成。

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- ・あったかふれあいセンター事業を通じ、旧小学校区での介護予防や健康寿命延伸の取組を実施

【今後の展開】

- ・土佐町スポーツコミッションにおけるスポーツ健康まちづくり事業の実施。
- ・これまでに引き続き、あったかふれあいセンター事業の実施。

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- ・空き家耐震改修事業等の推進
- ・地域の医療機関が、CLT工法のサービス付高齢者住宅を設置

【今後の展開】

- ・若い世代のニーズ等も把握をしながら今後の住宅等需要を見定めるとともに、PPP/PFIを活用した住宅施策など、必要な住宅整備については検討を進める。

コミュニティへの人の流れ

- ・地元NPOと引き続き連携をしながら、町の強みである移住促進施策を推進。特に子育て世代の移住促進を進める。
- ・地方創生テレワーク事業とも連携をさせながら、都市圏企業やテレワーカー等の関係人口創出と、それを通じた地域の活性化を推進

その他特徴的な取組

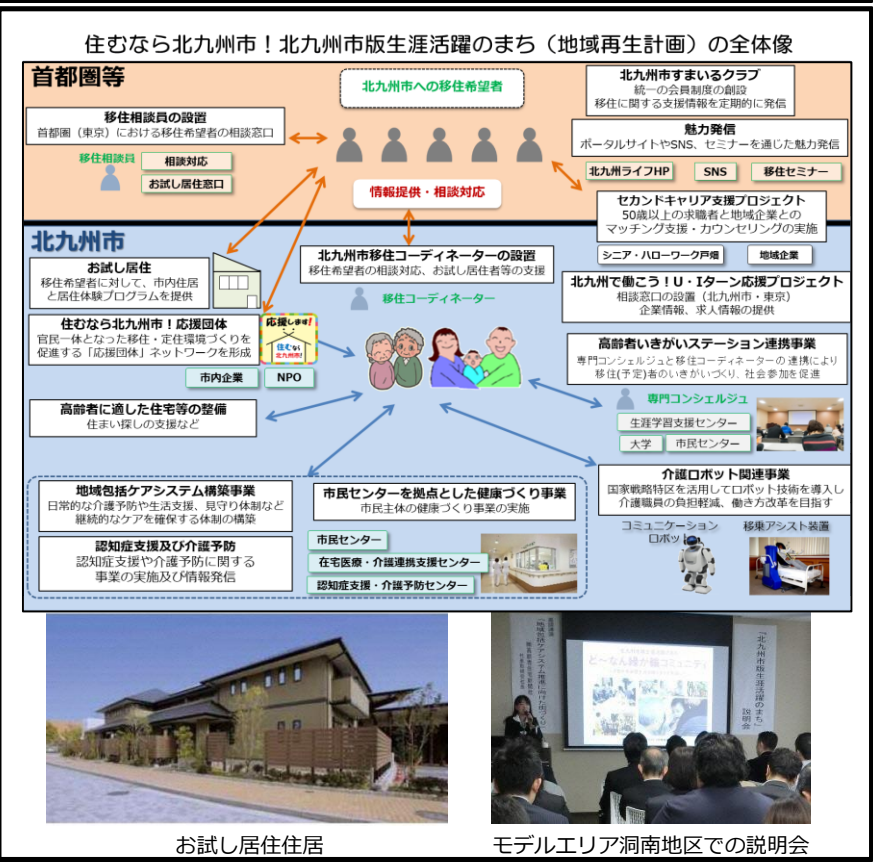
- ・SDGs未来都市の取組とも連携をさせながら、「持続可能なまちづくり」の一環として、全世代・全員活躍を推進。



◆コンセプト：「アクティブシニアの移住・定住の促進」

中高年齢者の社会活動への参加推進、高年齢者の居住環境の整備、地域における継続的なケアが提供できる環境づくり、その他移住支援などの事業を行い、市全体に波及させていく。

- <特徴>
- ・官民一体となった定住・移住促進施策の実施
 - ・介護ロボット導入による介護・医療体制の改良
 - ・シニア・ハローワークとの連携による人材還流促進



基礎データ

- ・人口：909,579人（R6.4.1時点）
- ・H27.10 地方版総合戦略を策定、H28.12 地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業関係）認定
- ・モデルエリア6地区のうち、洞南地区（H29.12.16）、守恒周辺地区（H30.7.21）において説明会を開催

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 高齢者いきがい活動支援事業

【今後の展開】

- 世代を超えた新しい仲間たちとの「つながり」を創出し、生涯活躍できるまちづくりの仕組みの構築に向けた取組を推進

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- セカンドキャリア支援プロジェクト
- シニアの働きやすいお仕事開拓事業

【今後の展開】

- シニア・ハローワーク戸畑と連携し、地域企業とのマッチング支援を実施
- ワークシェアリングの考え方で、1人役の仕事を分割した求人等を開拓。多様な就労ニーズに対応し、雇用のミスマッチを解消

「健康づくり」

【主な取組内容・進捗状況】

- 認知症支援及び介護予防
- 健康（幸）寿命プラス2歳の推進

【今後の展開】

- 人材の育成と情報の収集・発信を通じて、介護予防と認知症支援に取り組む個人・団体の活動を支援
- 健康知識の周知、企業や大学、マスコミ等と連携した啓発等を実施

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 住むなら北九州 定住・移住推進事業
- 北九州市空き家等面的対策推進事業

【今後の展開】

- 定住・移住に資する未利用市有地の活用や転入促進策等の実施
- 利便性の高い街なかにおいて、複数の空き家を面的に再整備し、新たな定住・移住の受け皿として提供

コミュニティへの人の流れ

- お試し居住の実施
- 北九州市すまいるクラブ（移住希望者会員登録制度）
- 移住相談員・移住コーディネーター
- 住むなら北九州市！応援団体登録制度
- 広報関係

その他特徴的な取組

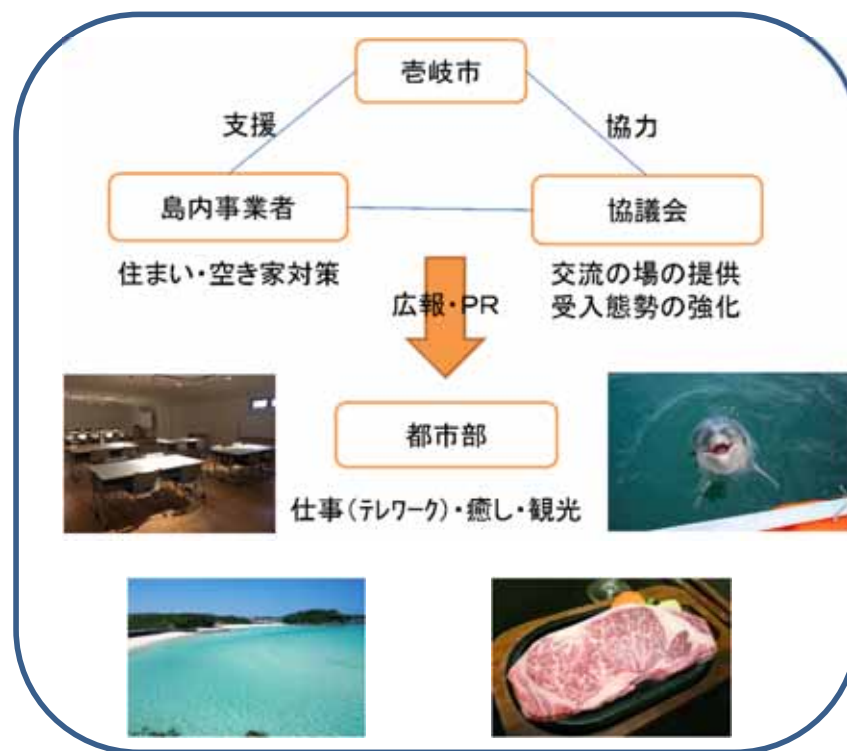
- 先進的介護「北九州モデル」推進事業
介護現場の働き方改革を推進するため、ICT・介護ロボット等を活用した「北九州モデル」の普及を図り、あわせて、感染症対策に資する取組を実施することで、先進的介護の実効性を高める。

◆コンセプト：「関係人口創出のまち 壱岐」

地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」を増やすことで、人口減少・高齢化・担い手不足などの課題解決、定住人口の増を図る。

<特徴>

地域資源を活用し、テレワーク等を推進するとともに、受入体制の整備をすることで、関係人口の増加を図る。



◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- まちづくり協議会の設置
- 空き家相談室「イエマチ」設置

【今後の展開】

- ワーク&ライフスタイルの提案・発信
- 移住促進、2拠点生活の推進

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- テレワークや兼業など、新しい働き方の創出
- 有人国境離島法による雇用の場の創出

【今後の展開】

- シニアが経験や教養を活かして地域で活躍する機会の提供
- 島外からの起業・創業の誘致
- テレワークセンターの活用による企業誘致

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域資源を活かした健康プログラムの開発
- 観光と連携した滞在型観光等の交流人口の増

【今後の展開】

- テレワークケーションの推進による仕事ストレスの解消
- 民間事業者の活力による介護予防活動

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域資源を活用した受け入れ環境の整備
- 民間団体と連携した空き家対策

【今後の展開】

- 空き家の活用も含めた居住場所の確保
- 民間団体と連携した空き家活用の推進

コミュニティへの人の流れ

- ※まちづくり協議会を設置し、地域住民による情報共有により課題解決を進める。
- ※いきな未来づくりプロジェクトの異世代・異業種間の意見交換によるプロジェクトの創出と実現を進める。

その他特徴的な取組

- ※テレワークや逆参勤交代等により、都会で働く人を呼び込み、関係人口の創出を図る。

基礎データ

- ・人口：23,995人（R6.4月1日時点）
- ・デジタル田園都市国家構想交付金（R5～）
- ・地方創生推進交付金（H28～R4）

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組事例：宮崎県 西米良村

◆コンセプト：「1,000人が笑う村の実現」

人口が少ない（約1,000人）我が村においては、一人ひとりが村の中で重要な役割を担っている。全ての村民が生涯現役でいつまでも元気に暮らす幸福度の高い村づくりを目指し、各種施策を展開している。

- ＜特徴＞
- 高齢者の生きがい・活躍の場の創出
 - 総合型地域スポーツクラブ等の実践による健康づくり
 - 世代間の交流機会の創出

◆介護予防運動教室◆



◆高齢者が働く百菜屋◆



◆総合型地域スポーツクラブ◆



◆地域学習の様子◆



◆おがわ作小屋村◆



◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

- 各地区を回って介護予防運動教室を開催。
- 認定こども園、小・中学校の地域学習の講師を村民が努める。
- 村内5箇所を通いの場を開設。

【今後の展開】

- 介護予防サポーターの養成、教室への男性参加者増加の取組み。
- 保・小・中一貫教育における地域学習の内容充実。高齢者の生きがいづくりと併せて子供の郷土を愛する心を育む。
- 高齢者の楽しみづくり、フレイル予防の継続。

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

- 高齢者が中心となり、活き活きと働く観光施設「百菜（歳）屋」、「おがわ作小屋村」の運営。

【今後の展開】

- 働き手の世代交代及び確保。
- 産地型商社の設立を検討中。
- 村内産品を使った商品づくりへの支援。

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 総合型地域スポーツクラブ「メラスポ」により、ヨガ、英会話、書道教室等を開催。
- メタボ予防と運動習慣の定着を図るた運動機器を使った「にしめらヘルスチャレンジ※」の実施。

【今後の展開】

- メラスポ各教室の内容充実。
- 村内講師育成。
- にしめらヘルスチャレンジへの参加層増加の取組み、運動習慣の定着を図る。
- IP告知端末を活用した食生活見直し事業の実施。

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 要介護状態予防のため、手すり等生活補助具の取付けへの支援。
- 空き家バンクの運営。
- 空き家改修補助の実施。
- 独居高齢者等が入居できる福祉住宅を整備。

【今後の展開】

- 支援の継続。
- お試し滞在住宅の運営。
- 新しい村営住宅建設を検討中。
- 村に長く住み続けたいと考える高齢者等の生活支援の継続。

コミュニティへの人の流れ

- 40歳未満の独身者のみ入居できる若者定住住宅の整備。
- 地域おこし協力隊制度の活用。
- ワーキングホリデー制度。
- お試し滞在住宅の整備。
- 公民館対抗のスポーツ大会。
- 村民運動会や文化祭。

その他特徴的な取組

- 村外申込者に年数回、村の産品をお送りする「ふるさと村民制度」。
- 村有林の売却益を財源とし、村民の活力増進と村づくりへの意欲を喚起する研修事業を実施。東京に行ったことのない高齢者のための「江戸見物事業」

- 基礎データ
- ・人口：911人（R6.3月末時点）
 - ・H17から「百菜屋」、H21から「おがわ作小屋村」の運営開始
 - ・総合型地域スポーツクラブ発足（H25.2月）
 - ・第6次西米良村長期総合計画策定（R3.3月）
 - ・第2期西米良村まち・ひと・しごと創生総合戦略策定（R3.3月）
 - ・西米良村地域福祉計画策定（R3.3月）

◆コンセプト：「集中から分散のまちづくり」

「集中から分散へ」「生涯活躍のまちづくり」を目標に掲げ、住民が主役となり自主自立の精神を高め、各集落、小学校区単位の活力、特色を更に発揮し、変革する社会へ対応可能な地域の仕組みづくりを目指す。

- ＜特徴＞** ○小規模校区を存続するための予算付けと住宅整備
○多世代交流・人材育成の場、公民館・学習支援センター
○介護予防のための健康増進施設や公民館の活用

◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり

「交流・居場所」

【主な取組内容・進捗状況】

○町有施設でもある旧家の整備による住民、来訪者のふれあいの場づくり

【今後の展開】

- 集落住民と地域おこし協力隊の足並みをそろえた空き町有施設の交流拠点作り
- コワーキングスペース・学習支援施設創出

「活躍・しごと」

【主な取組内容・進捗状況】

○サテライトオフィス事業の継続
○コワーキングスペースの創出と
民間運用

【今後の展開】

- サテライトオフィス・ワーケーションの推進による新たな地域産業の創出
- SEやガイドなど、今後需要が見込まれる職種の人材の育成と雇用受け皿作り

「健康」

【主な取組内容・進捗状況】

- 既存健康増進施設「ほーらい館」の機能拡張と運営体制の再構築
- 集落単位健康サロンの展開による住民主体の健康増進体制作り

【今後の展開】

- 集落単位の健康サロン（現在25か所）と健康増進施設「ほーらい館」をフル活用した住民の健康づくり
- （一社）長寿子宝社による受け皿作り

「住まい」

【主な取組内容・進捗状況】

- 小規模校優先・子育て世代優先の町営住宅と高齢者、障害者向け住宅建設
- 高齢者向けサ高住の整備

【今後の展開】

- 分散化を推進すべく、小規模校区のある集落を優先した町営住宅作り
- 点在する空き家を借り上げ、改修し、民間賃貸住宅としての供用

コミュニティへの人の流れ

- 民間主導によるコワーキングスペースの創出とSEなどの人材育成計画
- サテライトオフィス事業の継続による地域産業の創出
- 大型ホテルではない、住民とより触れ合える規模の民泊の創出
- メディカルツアーによる交流人口、長期滞在者の獲得

その他特徴的な取組

○長寿・子宝・世界自然遺産などの
地域資源を生かした学びの場づくり
と観光に留まらない人の流れの創出
○サテライトオフィス進出企業との
協働による地域課題解決に向けた地
方創生事業の推進

「集中から分散へ」要介護を防ぐ生涯活躍のまちづくり



阿權校区住宅（4世帯24名入居）



集落を結ぶ健康増進事業（巡回バス事業）

基礎データ

- ・人口：6,150人（R6.4月時点）
- ・H30.11 生涯活躍のまち形成事業 地域再生計画認定
- ・地方創生先行型交付金・加速化交付金・推進交付金を活用し子育て支援、健康増進、集落活性化、雇用創出など実施
- ・地域再生推進法人：一般社団法人徳之島長寿子宝社が健康増進・子育て支援に関わる事業へ着手（R1.7）